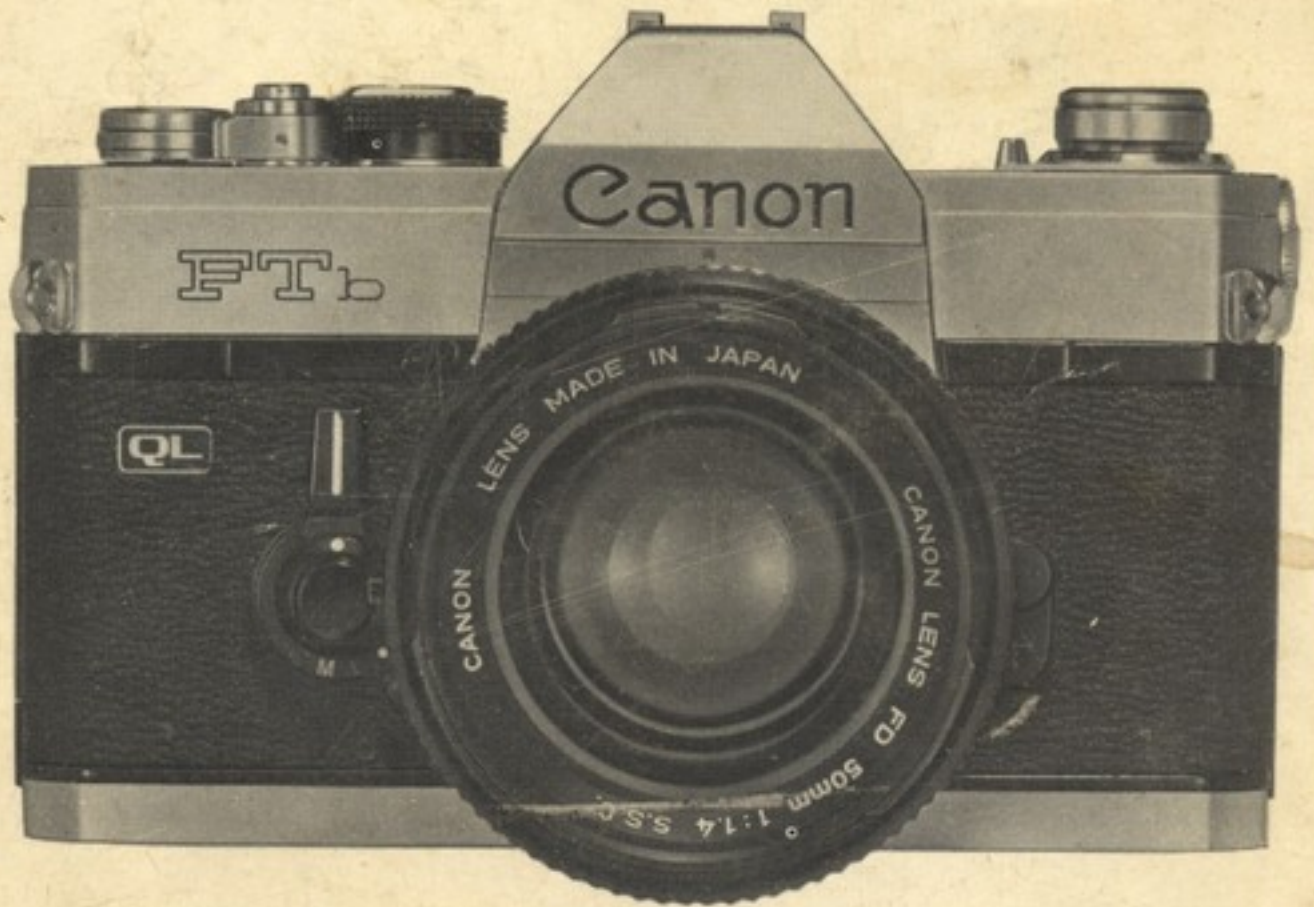




日本語版

Canon FTb



使用説明書

このたびはキヤノンFTbをお選びくださいますことによりありがとうございます。キヤノンは世界のカメラとして親しまれ、製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にたゆまぬ努力を続けてまいりました。

つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品をお届けすることに心がけ、多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合し、近代的かつ合理的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業により製造を行っております。

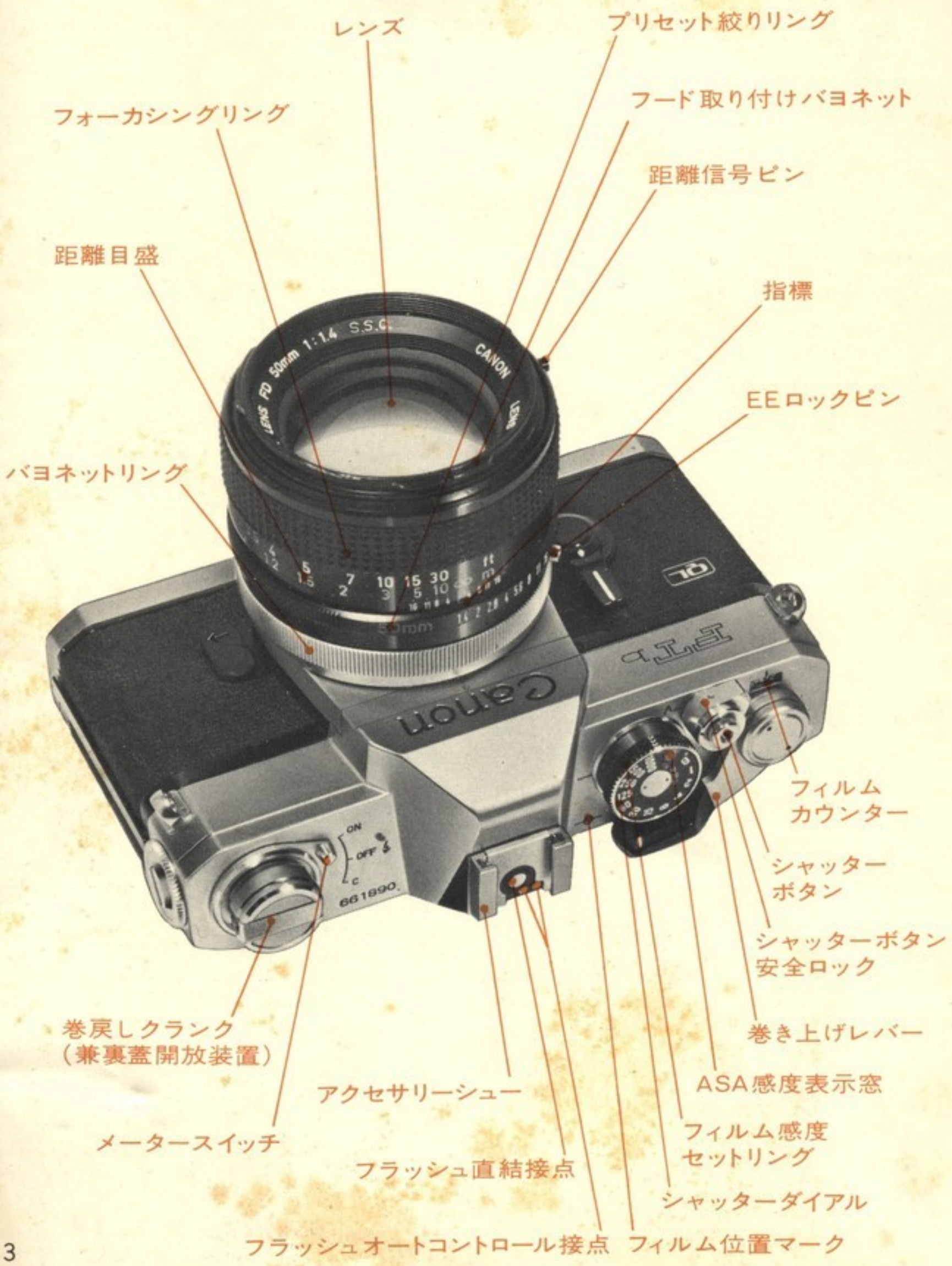
ご家庭に、ご研究に、ご旅行、お仕事に、十二分にご利用ください。

〈ご使用のはじめに〉

まず使用書をお読みいただき、各部の名称を覚え、操作も順を追って理解しましょう。



※都合により外観デザインの一部を変更することがあります。



レンズ

プリセット絞りリング

フォーカシングリング

フード取り付けバヨネット

距離目盛

距離信号ピン

指標

EEロックピン

バヨネットリング

フィルム
カウンター

シャッター
ボタン

シャッターボタン
安全ロック

巻き上げレバー

巻戻しクランク
(兼裏蓋開放装置)

アクセサリシュー

ASA感度表示窓

メータースイッチ

フラッシュ直結接点

フィルム感度
セツリング

シャッターダイヤル

フラッシュオートコントロール接点

フィルム位置マーク

キヤノンFTb主要性能

- 型 式：35mmフォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ
- 画面サイズ：24mm×36mm
- レンズ：開放測光用信号レバーをもつFDシリーズ標準レンズおよび交換レンズ群、絞り込み測光用FLレンズ群
- 標準レンズ：キヤノン FD55mm F 12 S.S.C. FD50mm F 14 S.S.C. FD50mm F 18 S.C.
- ファインダー：固定ペンタプリズム使用のアイレベルファインダー
ファインダーアタッチメント：アングルファインダーA2, B マグニファイヤーS 視度補正レンズ4種
- ピントガラス：フレネルレンズ使用 高解像力性ピントガラス マイクロプリズム距離計付
- コンデンサー：測光用ハーフミラー付
- 視野情報：距離計 測光部範囲 シャッタースピード メーター指針および追針 不適正露出警告マーク 絞り込み測光用定点兼水銀電池チェック用マーク メーター連動範囲外警告信号
- 視野倍率：標準50mmレンズ∞遠の場合0.85倍
視野 実画面の94%
- ミラー：ノンショッククイックリターンミラー ミラーはね上げロック可能
- レンズマウント：バヨネット式マウント FL R各レンズ取り付け可能
- 取り付け機能：FDレンズ—開放測光 自動絞り連動
FLレンズ—絞り込み測光 自動絞り連動
Rレンズ—手動絞り込み測光
- シャッター：布幕フォーカルプレーンシャッター シャッターボタンロック可能
- シャッターダイヤル：一軸不回転式 $\frac{1}{1000}$ ～1, B
倍数系列等間隔目盛 60はX接点 ASA目盛セットつき
- 使用フィルム感度：ASA25～2000の20段階
- セルフタイマー：内蔵式 シャッターボタンで始動 時限約10秒 絞り込み測光レバー兼用

露出調節機構：シャッタースピード フィルム感度 絞り値に連動する追針式TTL開放測光機構 FDレンズの開放F値自動補正機構付き CdSをコンデンサー後方に配置した中央測光方式 測光部は画面の約12% サイズは12×8mm

FLおよびRレンズに対しては定点式絞り込み測光 測光レバーロック可能

露出計連動範囲：ASA100 EV25 (F12 1/4秒)～EV18 (F16 1/1000秒)
低輝度側連動範囲外では 警告信号赤マークが出る

メーター用電池：JIS (日本工業規格) H-D型 1.3V 水銀電池1コ使用
米国製MALLORY PX-625 EVEREADY EPX-625に相当

電池チェッカー：内蔵ASA100 1/1000でチェック

超低照度測光：ブースターの接続でASA100 EV-35 (F12 15秒)～EV10 (F22 1/2秒)まで測光可能

シンクロフラッシュ：FP接点およびX接点 タイムラグ自動調整式

ソケット：ボディ前面にJIS B型ソケット アクセサリーシュー部にはフラッシュ直結接点およびフラッシュオートコントロール接点あり

CATシステム導入：充電信号および測距信号による追針式絞りコントロール機構 専用直結ストロボ フラッシュオートリングおよび指定レンズFD50mm F14 S.S.C. F18 S.C. およびFD35mm F2 S.S.C. F35 S.C. との連結によりメーター追針方式で適正絞りが設定できるシステム (CANON AUTO TUNING SYSTEM)

同調範囲：FP級-1/1000～1/125秒 1/30秒以下
ストロボ-1/60秒以下 キャッツは1/60秒専用
M MF級-1/30秒以下

巻き上げレバー：1作動174°回転レバー 小刻み巻き上げ可能

フィルム装填：独特のQL迅速簡易装填

フィルム巻き戻し：巻き戻しボタンおよびクランク操作 巻き戻しボタンは自動復帰式

二重露出：巻き戻しにより可能

フィルム枚数計：自動復帰順算式

大きさ・重量：144×93×43mm

750g(ボディのみ)/FD50mm F14 S.S.C.付 1,055g

キヤノンFTbの特長

キヤノンFTbは、性能、精度面において世界最高級キヤノンF-1の開発技術を全面的に反映させたものです。ことに、F-1の中央開放測光方式と相まって、新設計されたFDレンズ群のシステムをそのまま導入、更に専用ストロボによる独特のフラッシュオート機構CATSの組み込みなど、魅力ある特長をもたせた、最もオーソドックスな一眼レフです。

その主な特長は、

1. 正確なTTL中央開放測光方式

F-1同様、FDレンズ群を使用する開放測光方式を導入しました。これは、FTの理想的な中央測光方式を開放でできるようにしたもので、精度においては申し分ありません。FDレンズは、この開放F値をボディ側と連結して伝達するもので、取り付け時に何ら調節を必要とせず、直ちに開放で測光が行なえます。また、FLレンズを取り付けた場合には、FT同様絞り込みによって正しい露出が得られるため、お手持ちのレンズがすべて駆使できることになります。

2. 新開発のFD交換レンズ群

F-1と共用する高品質、高性能レンズ群です。今後10年間、最高の性能を維持する目標の下に、コンピューターを駆使した大幅な光学設計活動によって生まれたレンズです。広角、望遠の系列化、特殊レンズの開発など、FTbの性能を一段と強化します。独自の焦点調節機構、多層膜コーティング(S.S.C.)、新素材の導入等可能な限りの技術が追求されています。したがってFTbの撮影分野は益々拡大され大いに期待できます。

3. 独自のフラッシュオート機構の採用

一般のフラッシュ撮影のほか、専用ストロボと指定レンズおよび距離信号用フラッシュオートリングの使用により、絞り値の決定を開放測光同様ファインダー内で追針式に行なえるフラッシュオート機構です。ストロボの電圧チャージとピント合わせが信号としてメーター指針に入りますから、絞りリングを回して追針を重ねるだけで適正絞りが得られます。従来のガイドナンバー計算を全く不要とし、安心してストロボ撮影が楽しめる機構です。使用できるレンズは、FD50mm F1.4 S.S.C.、F1.8 S.C.およびFD35mm F2 S.S.C.、F2.8 S.C.の4本です。

※ レンズ名称にS.S.C.又はS.C.の記号が入っていますが文中これらの記号は省略します。

4. その他

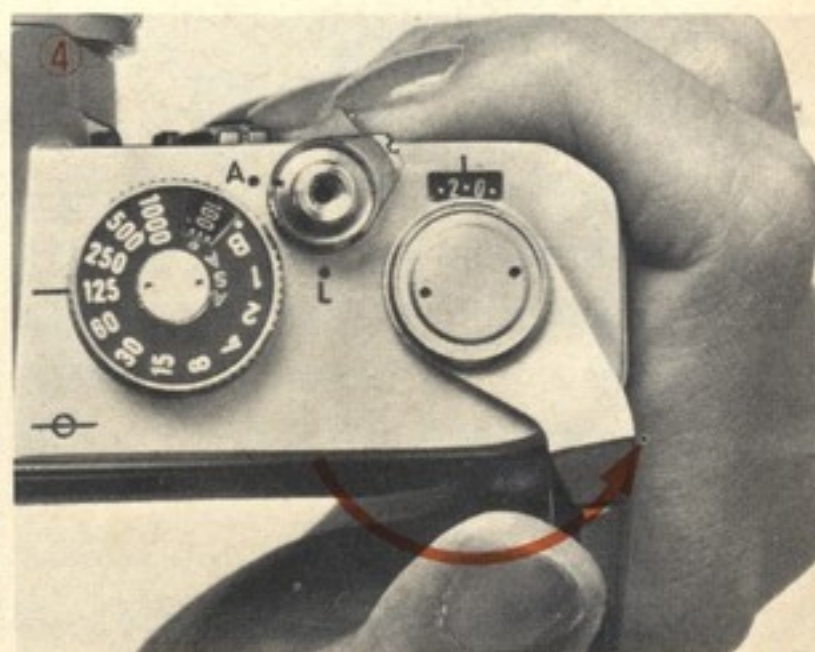
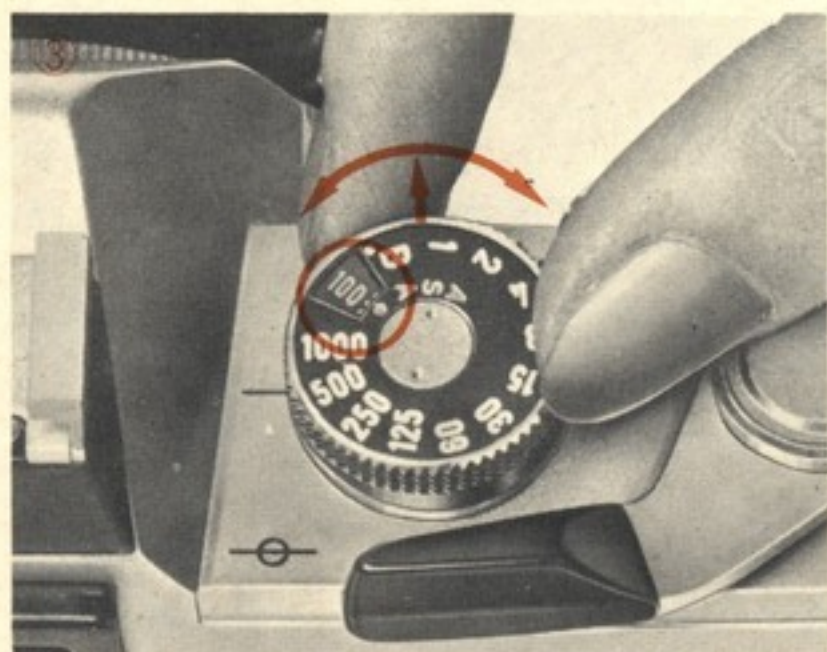
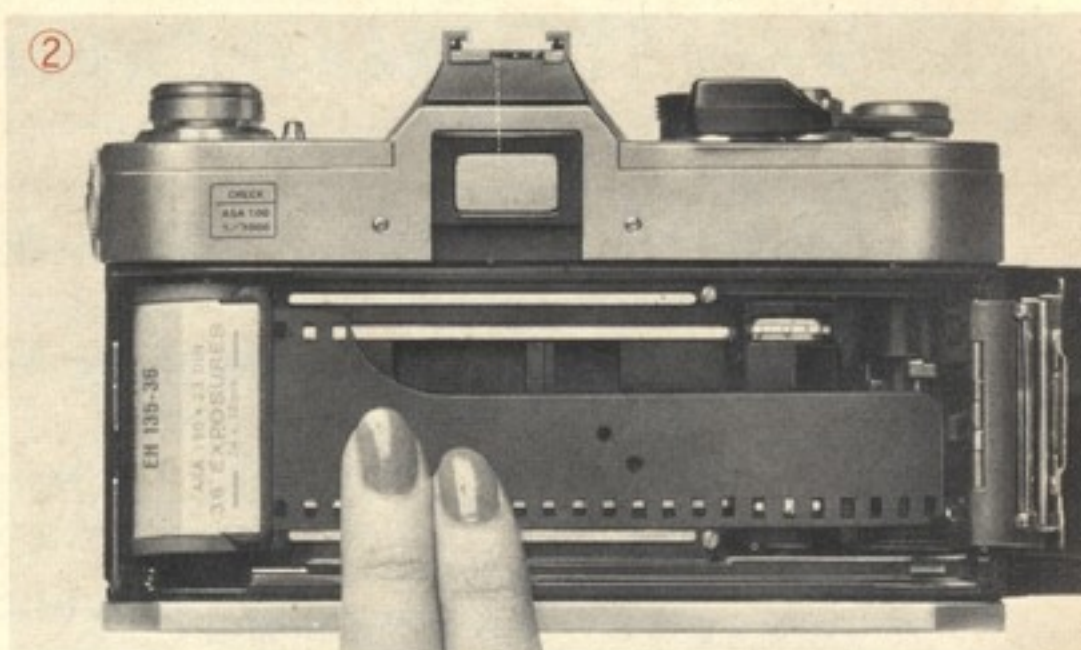
明るいファインダー、合わせ易いピント調節、快適なシャッター、操作性の良い巻上げレバー、シャッターボタン、ノンショックミラー、簡易装填QL機構等。

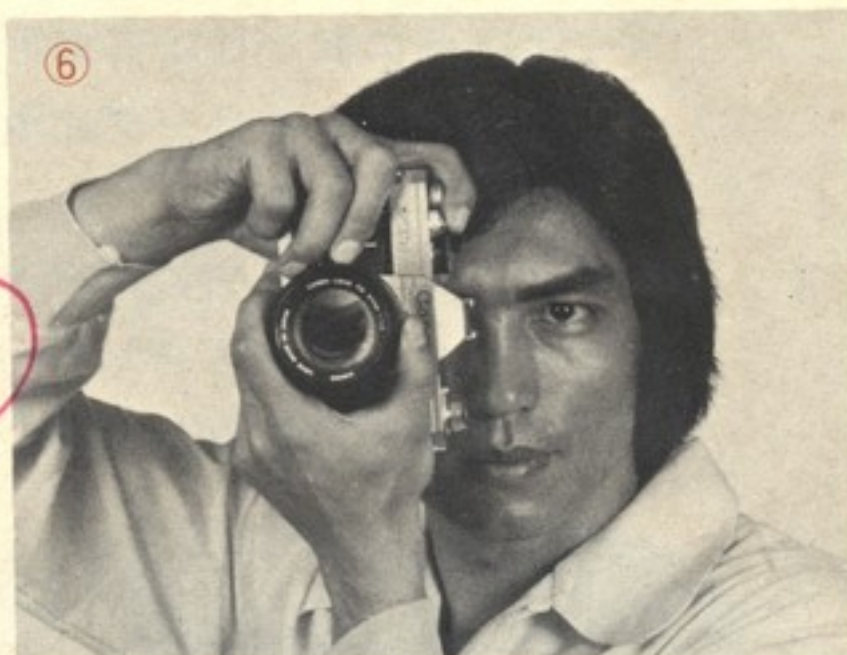
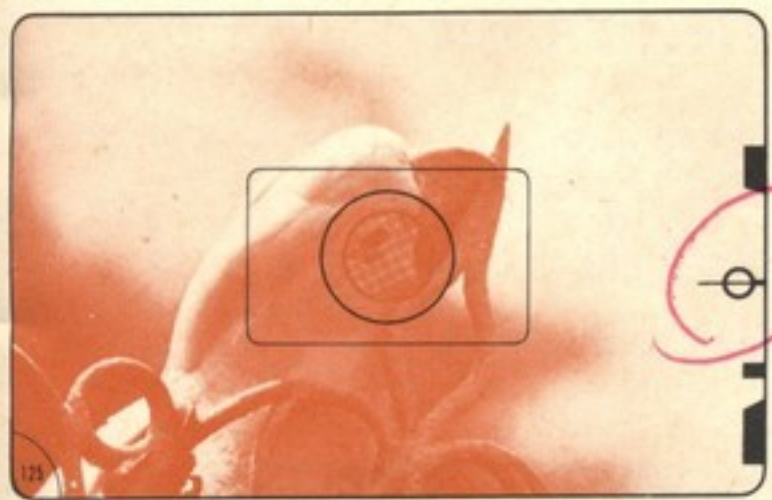
— 目 次 —

レンズの取り付け方	10
水銀電池のつめ方	12
水銀電池のチェック	
巻き上げ操作	14
巻き上げとシャッターボタン 撮影枚数表示 シャッターの安全装置 ケーブルリリースの取り付け	
シャッターと絞り	16
シャッターダイヤル レンズの絞り 自動絞り 手動絞り	
ピントの調節	22
視度補正レンズ アングルファインダー マグニファイヤー	
TTLメーターの使い方	24
その準備(フィルム感度のセット) 使用できるフィルム感度	
開放測光	26
絞り込み測光	30
カメラの構え方	32
フィルムのつめ方(QL装填)	34
フィルム感度表示 フィルム装填の確認	
フィルムの巻き戻し	38
セルフタイマー	41
フラッシュ同調	42
フラッシュオートリング用距離信号ピン	
レンズの取り扱い	44
レンズの交換 レンズ信号 距離目盛 赤外マーク フィルム位置マーク 被写界深度目盛 被写界深度の性質 FDレンズマウント (FLレンズとRレンズ)	
ミラーのはね上げロック	52
二重露出	54
キャノンフィルターのおすすめ	55
カメラの保存と手入れ	56
交換レンズ	58
アクセサリ	60
キャノンブースターのおすすめ	63

【撮影手順】

1. レンズを取り付ける
2. フィルムをつめる
3. 感度を合わせる
4. レバーを巻き上げる
5. キャップをはずす
6. ファインダーを覗き
ピントを合わせる
7. メーターで露出をきめる
8. 構図をきめてシャッター
ボタンを押す





【レンズの取り付け方】

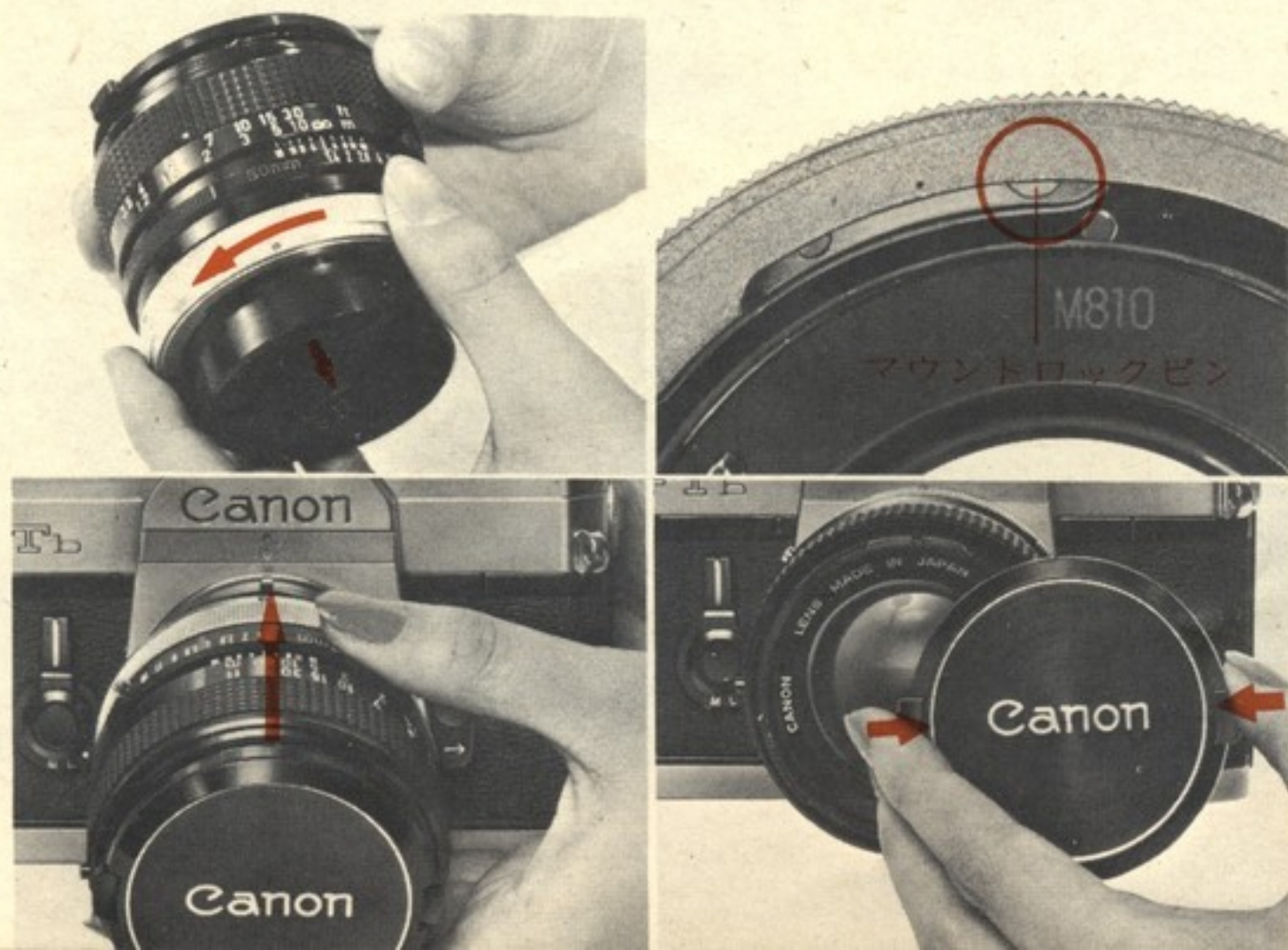
レンズの底蓋をはずして、カメラボディに取りつけてください。

1. バヨネットリングを矢印方向に回して底蓋をはずします。

※底蓋をはずすとバヨネットリングは回すことができません。また、絞りリングを回しても絞り羽根は作動しません。故障ではありません。

※バヨネットリングを回して作動確認したい場合にはマウントリングの下、位置ぎめピンの上側にロックピンがありますからこれを先の細いピンなどで押しながらリングを回してください。同様にマクロフォトカプラーにレンズを逆向きに取り付けて撮影する拡大撮影の場合にはマクロフードをこのリングに取り付けて手動絞りができるようにしてあります。

2. ボディのレンズ取り付け部の赤点にレンズのバヨネットリングの赤点を合わせて押し付け気味にはめ込みバヨネットリングを時計方向に回して取り付けます。



3. レンズキャップをはずします。

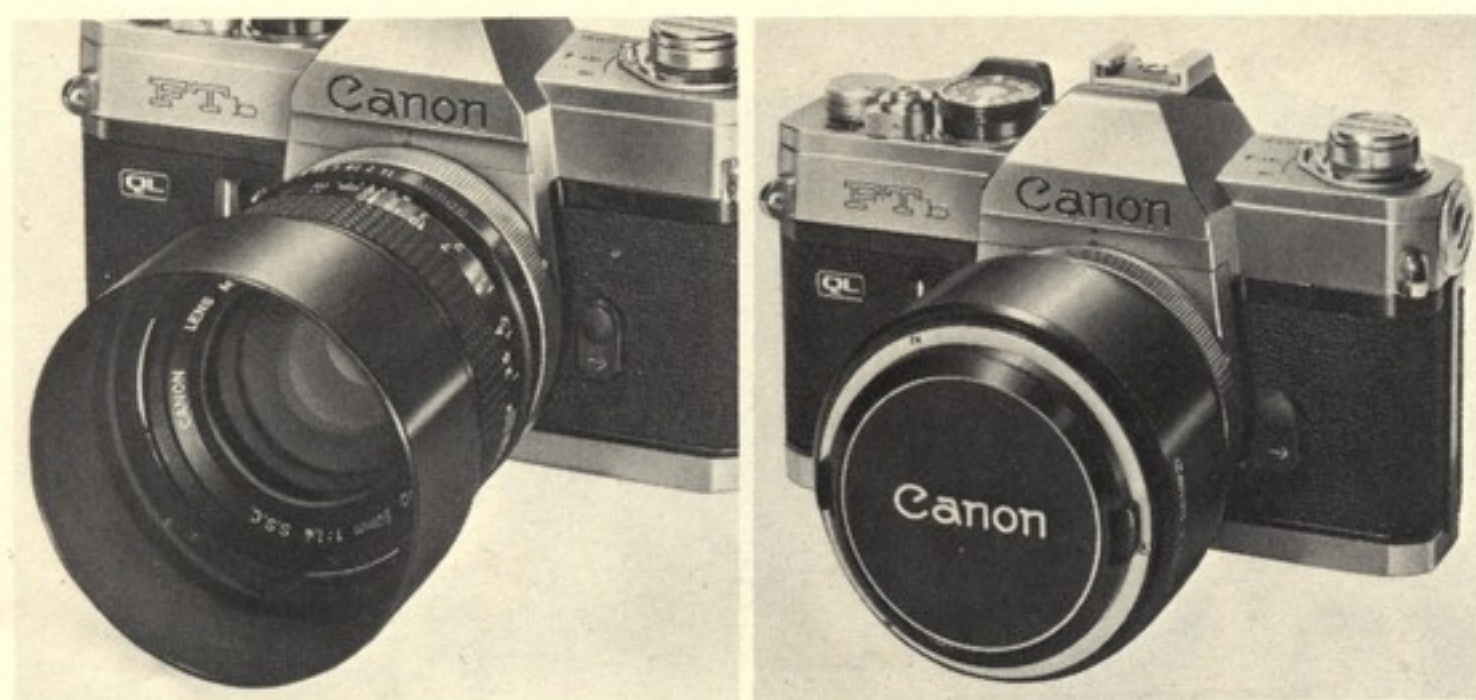
キャップは両側のつまみを押し込んではずします。

〈フード〉

レンズ先端のパヨネット部にはめ合わせて右回しにすると装着できます。また標準、広角レンズのうち、特殊なものを除けばフードを逆向きにかぶせ、パヨネット金具にはめ合わせて左回しに固定すると、上からレンズキャップをかぶせてカメラケースに収納できます。

〈レンズキャップ〉

レンズキャップはフィルター取り付けねじを利用して取り付けできるようになっていますから、ねじ付きフィルターの上からもかぶせられます。



【水銀電池のつめ方】

別封の水銀電池をカメラの水銀電池室につめてください。

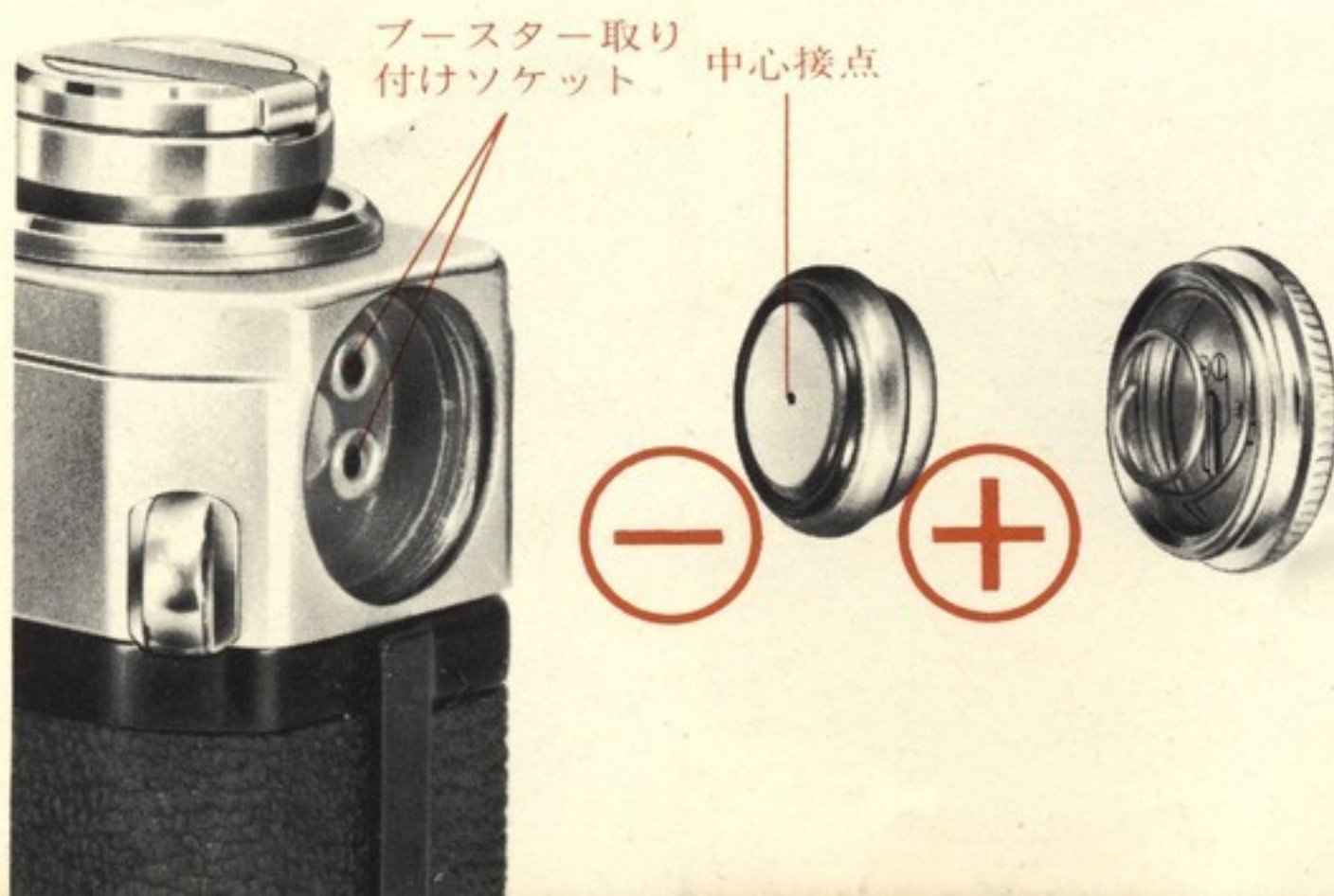
水銀電池は内蔵メーターの電源ですから、これを入れ忘れるとメーターが作動しません。

1. 水銀電池室蓋のコイン溝に硬貨をあてて左回しにはずします。
2. 水銀電池の中心接点 (⊖) を奥に向けて挿入し、蓋をねじ込みます。挿入の向きを間違えると蓋がねじ込めません。
3. 水銀電池は、JIS(日本工業規格) H-D型 1.3V 1コ使用。米国製 MALLORY・PX-625, EVEREADY・EPX-625に相当し、約1カ年の使用に耐えます。

4. 汗や指紋を拭きとってください。

水銀電池に汗や指紋をつけたまま挿入しますと、ときに接触不良によりメーターが作動しないことがあります。また腐蝕してカメラの電気接点をそこなうおそれもあります。必ず乾いた布で拭きとってください。

5. カメラの不使用时には水銀電池を抜き出しておいてください。



《水銀電池のチェック》

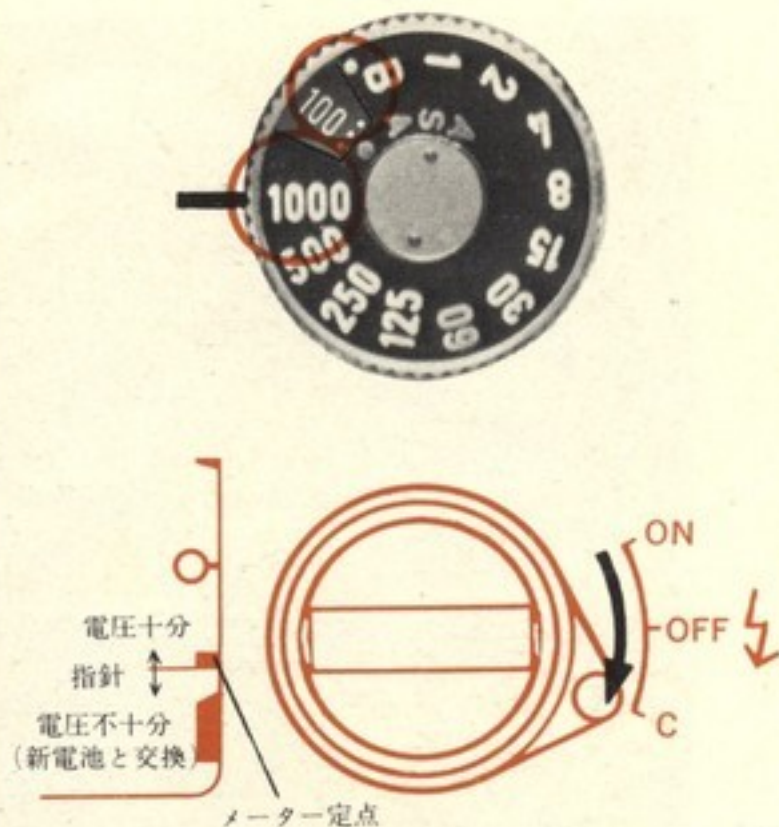
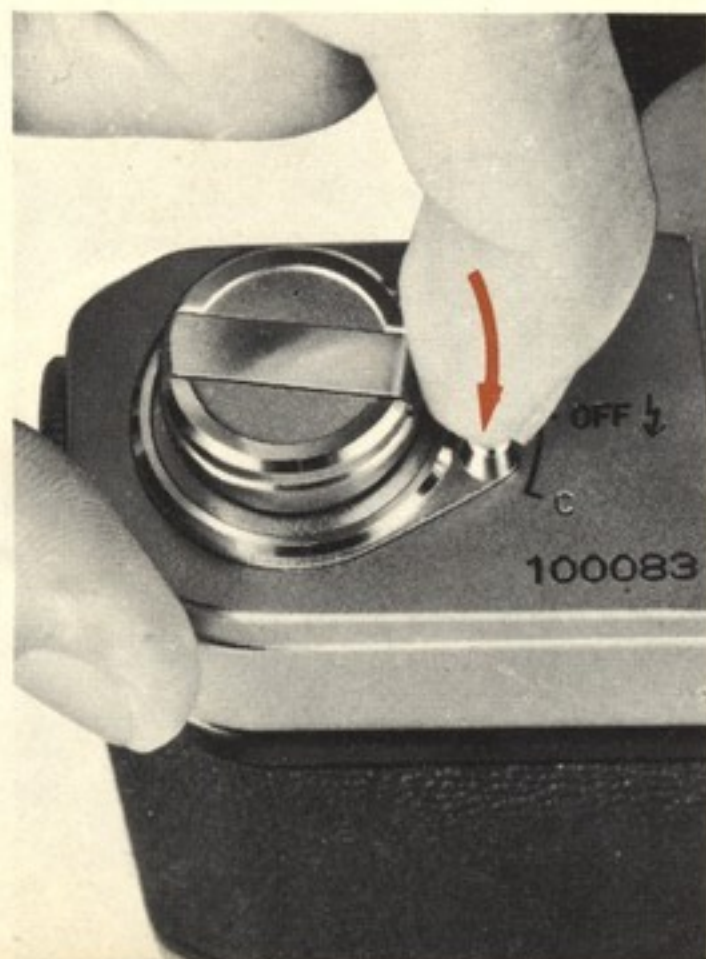
電池をつめたあと必ず電圧をチェックしてください。また長期間使わなかったときも調べて、電圧不十分の場合には交換してください。

1. シャッターダイヤル上の感度目盛をASA 100 にセットし、シャッタースピードを1000に合わせます。

※これ以外の目盛では正しいチェックができません。

ASA感度の合わせ方は、シャッターダイヤル周辺のリングをもち上げて回します。(25頁参照)

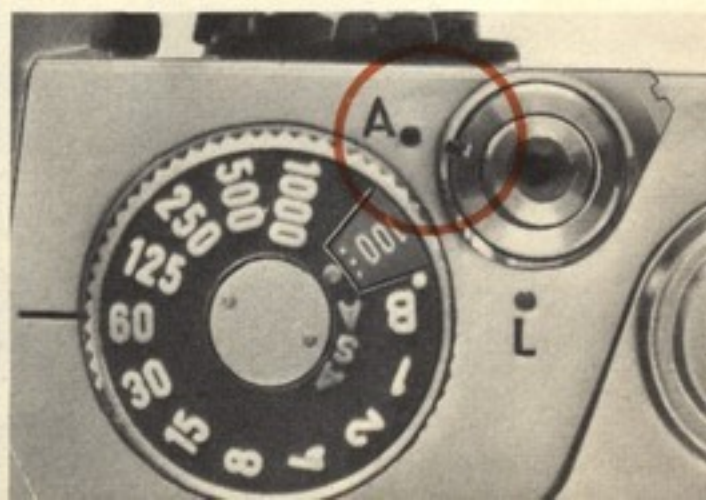
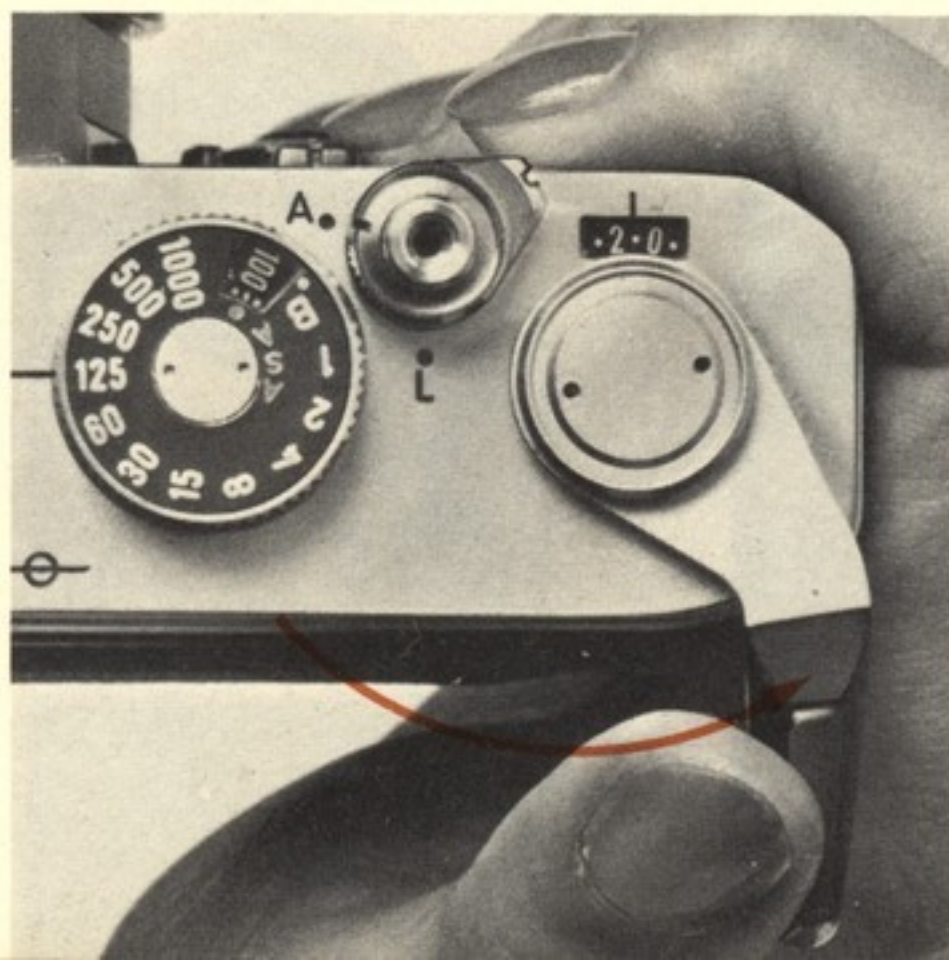
2. 巻き戻しノブ下部のメータースイッチをC位置まで回してください。
3. このとき、ファインダー指針が定点以上に振れれば電圧は十分です。もし指針が、定点まで振れない場合には不十分ですから新しい電池と交換してください。
4. メータースイッチは指をはなすとOFF位置に戻ります。
5. カメラを使用するときは、メータースイッチをONにセットしてください。



【巻き上げ操作】

《巻き上げとシャッターボタン》

1. 巻き上げレバーはフィルムの巻き上げおよびシャッターと絞りとミラーの作動チャージなど、内部機構の巻き上げを一度に行なうものです。
2. 巻き上げの前にシャッターボタン周囲の安全ロックを回し、指標をA位置に合わせてください。
3. 巻き上げレバーを完全に止まるまで回すと、フィルムが1コマ分送られ、シャッターがチャージされます。同時にフィルムカウンターも1目盛進みます。
4. シャッターボタンを押すとミラーがはね上り、同時にレンズの絞りがきめられた絞り値まで絞り込まれ、ついでシャッターが走行し露出が行なわれます。そして絞りは開放にミラーは定位置に復帰し、一連の作動が完了します。
5. 巻き上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合にはもう一度巻き上げを確かめてください。



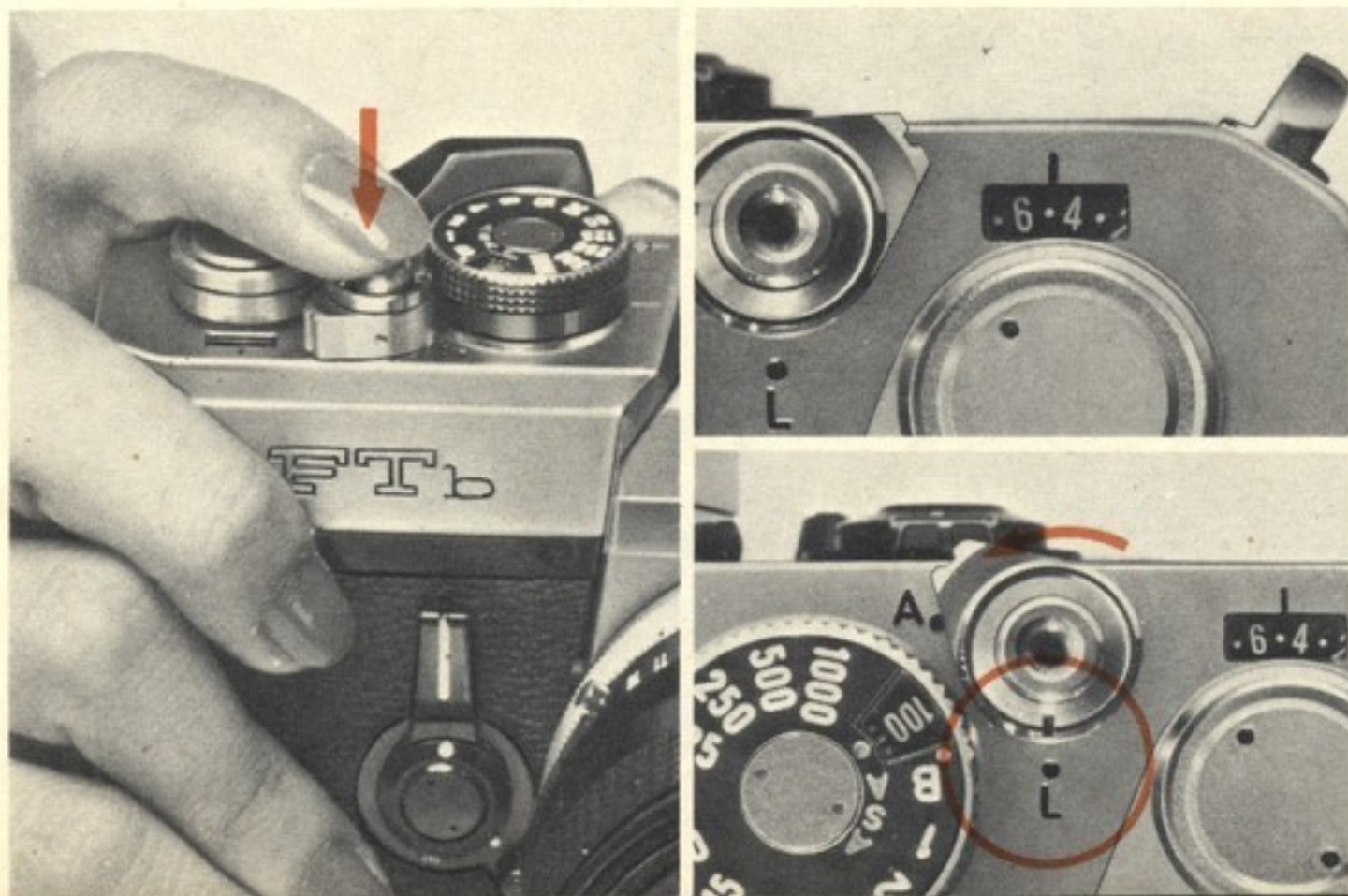
6. 巻き上げレバーはシャッターの作動後、ただちに巻き上げできる状態になります。
7. 巻き上げは、レバーを小刻みに繰返し操作してもできます。

《撮影枚数表示》

レバーを1回巻き上げるごとにフィルムカウンターが1目盛進んで、フィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークSまで戻ります。

《シャッターの安全装置》

シャッターボタンのまわりにある安全ロックを回し、指標をLの位置に合わせると、巻き上げ後シャッターボタンが動かぬように固定されます。巻き上げたままの携行またはバッグ内に収納するときご利用ください。

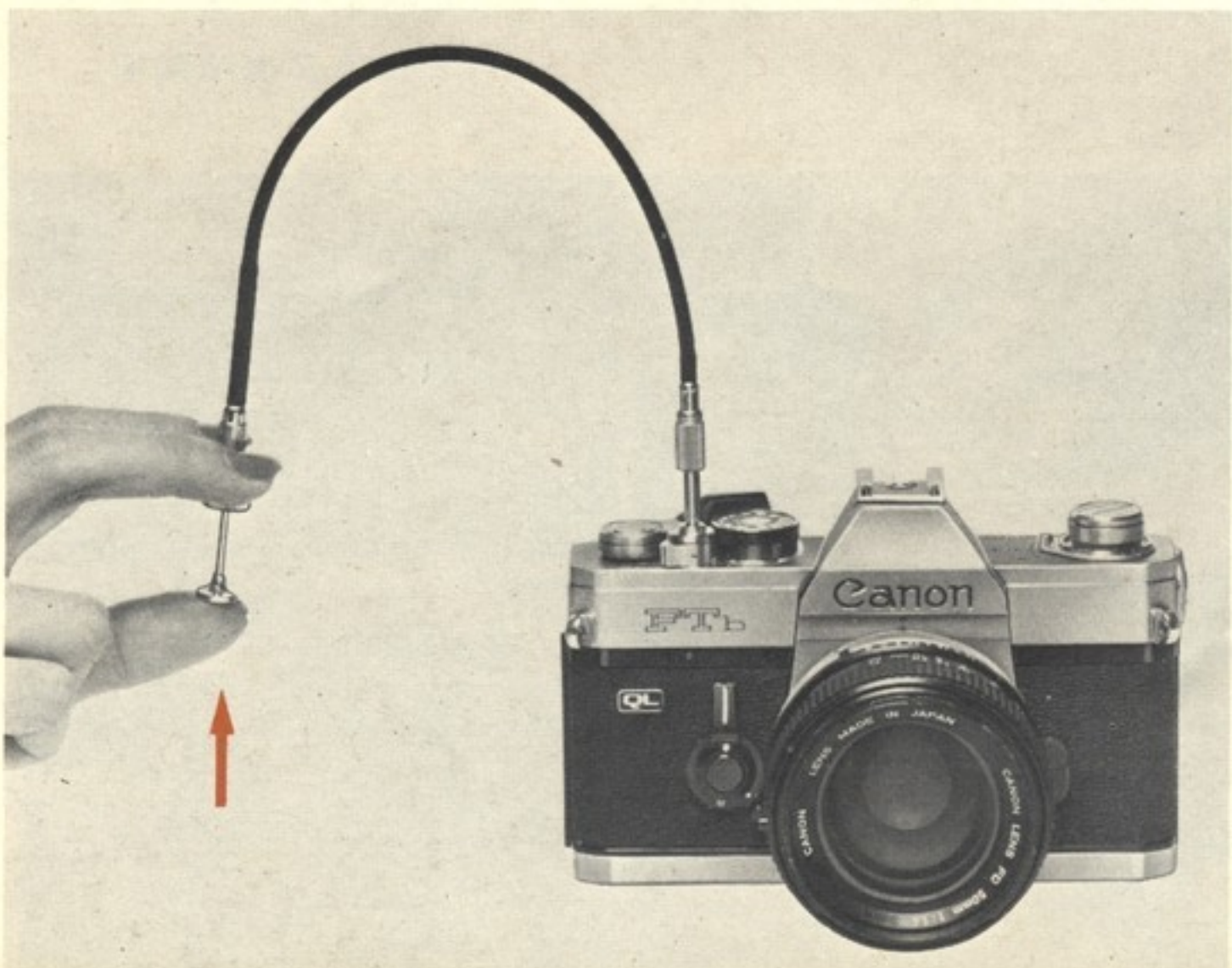


《ケーブルリリースの取り付け》

シャッターボタンにはケーブルリリースがねじ込んで取り付けできます。ケーブルリリースは静かにシャッターリリースができますから、長時間露出や望遠撮影で三脚にカメラを取り付けた場合にご利用ください。また複写などのさいにも大変役立ちます。ケーブルリリースを使用する場合には、安全ロックレバーがL位置にあっても、シャッターが作動し巻き上げも可能です。

【シャッターと絞り】

シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。そして、このカメラは追針式TTLメーターを内蔵しており、開放測光により簡単に適正露出が得られるようになっています。



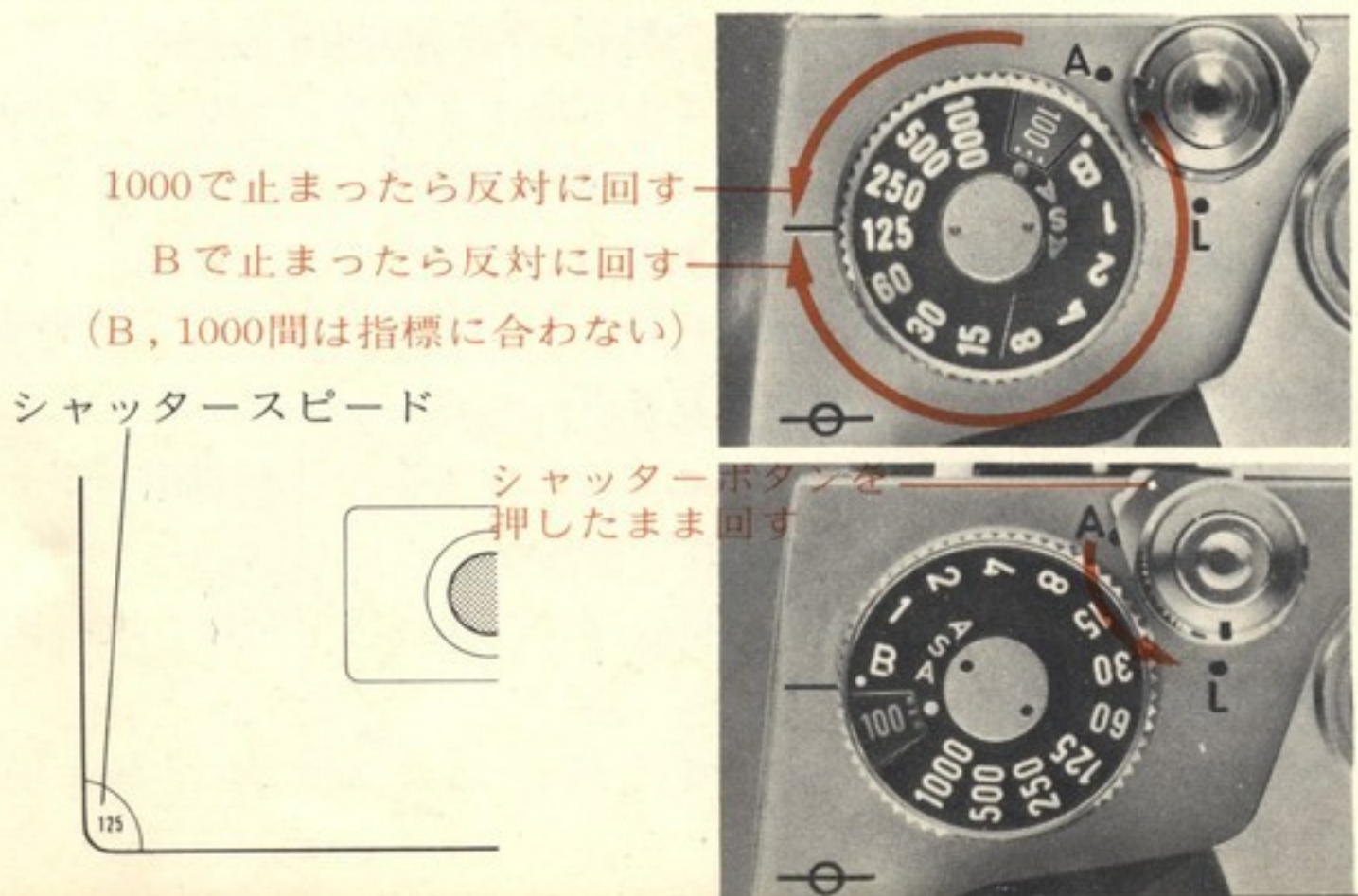
《シャッターダイヤル》

シャッター秒時(スピード)を調節するもので、目盛は各秒時の分母が表示されています。たとえば1000は $\frac{1}{1000}$ 秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒です。このダイヤルを回して、指標に必要な目盛を合わせれば、シャッターボタンを押したときに目的の露出時間が得られます。

また、シャッターダイヤルはB—1000間は回転できない構造になっています。シャッタースピードは、1段ごとに速度が2倍になる倍数系列となっています。目盛と目盛の間は使用できません。

Bはバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッター幕が開いていますから、1秒以上の長時間露出に用います。長時間のタイム露出が必要なときには、Bにセットし、シャッターボタンを押したまま安全ロックレバーを回して、指標をLに合わせてください。こうすると、指をボタンから離しても露出が続けられ、レバーをAに戻すと、シャッターが閉じて露出が終了します。

このカメラではシャッターダイヤルを回すとファインダー内左下でシャッタースピードを確認することができます。



T露出には、ロック付ケーブルリリースを利用することもできます。また長時間撮影の測光にはキャノンブースターをご利用ください。

60の橙色目盛は、ストロボ同調用で、シャッタースピードとしては $\frac{1}{60}$ 秒ですが、ストロボ使用時には、実際には、ストロボの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。

各目盛のセットは、カチッと止まるクリックストップ位置で行なってください。とくにB目盛の場合は、下の白点を合わせてください。

〈レンズの絞り〉

絞りはシャッタースピードと組合わせて、適正露出を行なうために用いられます。プリセット絞りリングを回して調節し、指標に合った目盛で明るさを読み取ります。レンズの明るさ(開放公称値)は、この絞りの一番小さい数値の目盛をとって呼ばれており、目盛はその数値が大きくなるにつれて暗くなり、目盛の1段ごとに明るさが半分になるようになっています。したがって適正露出がきまっている場合、絞りを1目盛絞り込んだときは、シャッター速度を1段おそくし、2目盛絞り込んだときは、シャッター速度を2段おそくしてやれば、露出量は同じになります。絞りは目盛の中間を用いることもできますから、FDレンズでは絞りリングの目盛の中間、つまり半絞り位置にクリックストップを設けて使い易くしてあります。

レンズによっては最大口径の絞りと次の絞りとの間にだけ明るさが半分にならないものもあります。

絞り目盛と露光量の比率は、F 2を規準として次の通りです。

〈絞り値〉

12 14 18 2 28 35 4 56 8 11 16 22

〈露光比〉

3 2 $1\frac{1}{4}$ 1 $\frac{1}{2}$ $\frac{1}{3}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{16}$ $\frac{1}{32}$ $\frac{1}{64}$ $\frac{1}{128}$

絞りのきめ方はTTLメーターにより簡単に行なえます。

絞りは明るさの制限だけでなくピントにも関係しますから、効果を十分に理解してご利用ください。(49頁参照)

《自動絞り》

FDレンズは、絞りをプリセットしてもつねに開放でファインダー視野が見られ、シャッターを切った瞬間だけセットしてある絞り値まで、絞り羽根が絞り込まれます。そしてシャッターが切れ終ると、再び全開して明るいファインダーに戻る自動絞りの構造をもっています。

《手動絞り》

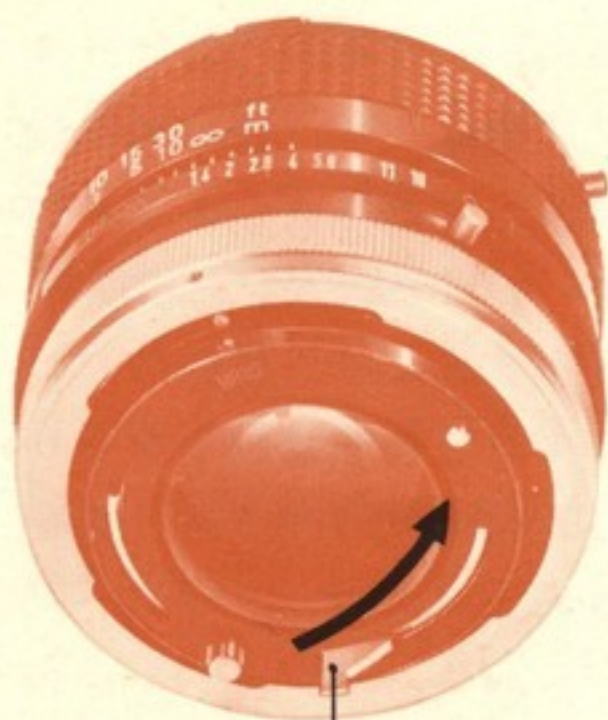
1. 手動絞りは実際に絞り込んだ場合のピント状態を確認するときや、接写、拡大撮影などの特殊撮影に使用します。
FDレンズには、絞りリングが1つしかありませんが、ボディ前面の絞り込み用レバーをレンズ側に倒すと手動絞りの状態となり、プリセット絞りリングを回転させると絞り羽根が開閉されます。F-1、FT、ペリックス等にも同様に使用できます。
2. レンズとボディの中間にアクセサリーをはさんで撮影する場合には普通は自動絞りが使えませんが手動絞りに切り換えます。セットのしかたは、レンズをはずし、後部の自動絞りレバーを反時計方向に一杯に回してロックします。この状態でボディに取り付けるとプリセット絞りリングの回転で羽根が開閉します。ロックを解除するには、自動絞りレバーを少し押し気味に戻します。またこの手動ロックを利用すれば、測光レバーをもたないFXなどのキャノン一眼レフに取り付けて、手動絞り撮影が行なえます。

※ 複写，拡大撮影などでレンズを逆向きにしてマクロフォトキャプラーへ取り付けて使用する場合は，レンズの自動絞りレバーを手動絞り操作状態にロックした上で，マクロフォトキャプラーに付属しているマクロフォトフードをレンズのマウント部にはめ込み，バヨネットリングをマウント取り付け位置まで回してください。

《FD50mm F 1.8の場合》

FD50mm F 1.8 レンズの手動絞り操作は他のFDレンズと異なります。自動絞りレバーを矢印方向に回して手動ロックレバーを(L)の位置へ動かします。この状態でボディに取り付けプリセット絞りリングを回転させると絞り羽根が開閉します。また手動ロックレバーを白点の方へ動かすと，手動絞りを解除できます。(FD50mm F 1.8レンズはキヤノンフレックスR系列のカメラには使用できません)

FDレンズの
手動絞り操作



自動絞りレバー

FD50mm F 1.8の
手動絞り操作

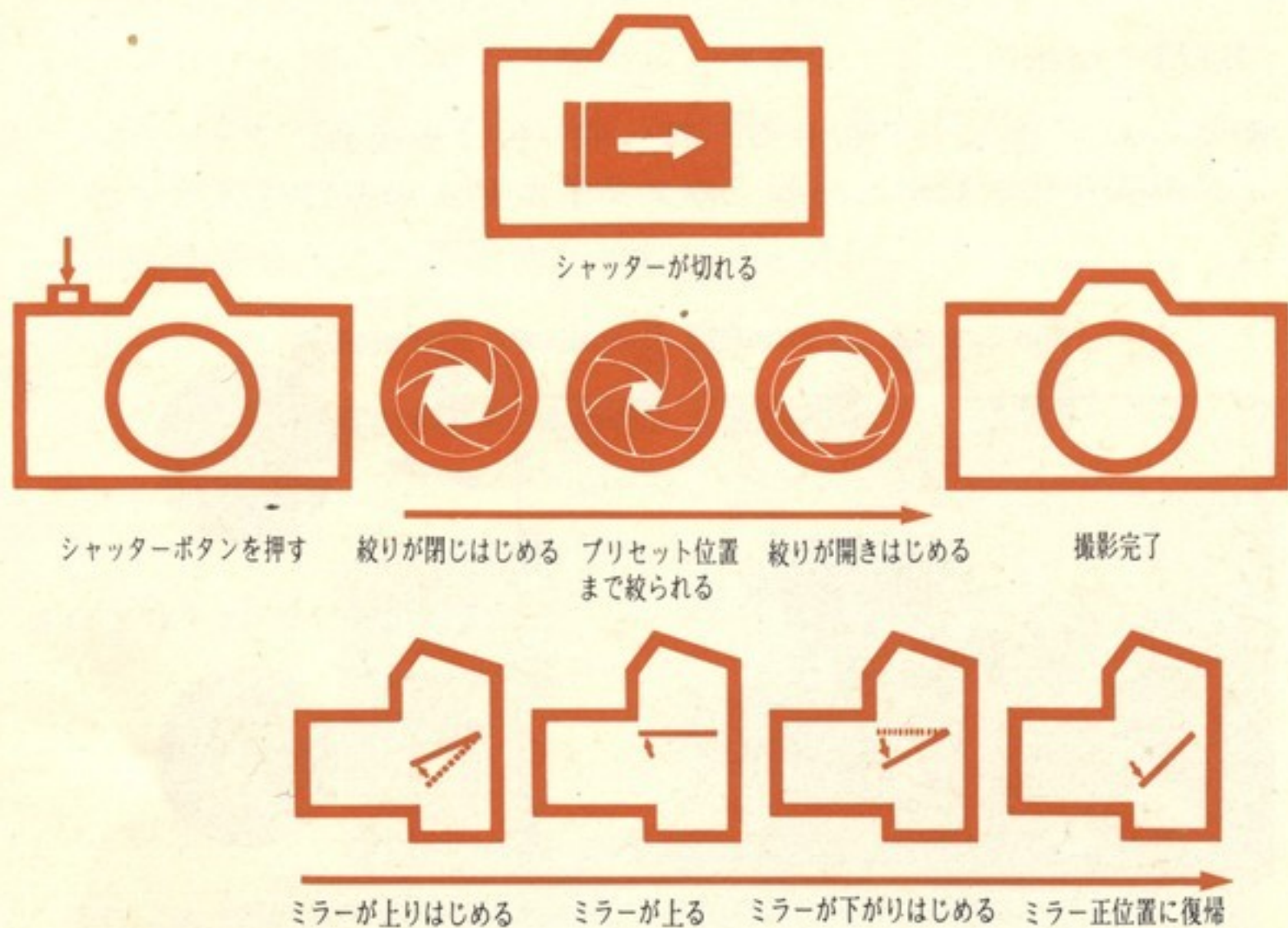


手動ロックレバー

3. F-1, FTb, FT, ペリックス等の測光レバーをもったキヤノン一眼レフで手動絞りを使用する場合には、絞り込み測光操作で適正露光が得られます。
4. プリセット絞りリング上の緑の丸印は、この FTb には使用できません。レンズをカメラに取り付けた状態では、この位置に回すことはできません。またプリセット絞りリングを緑色マークに合わせたままでは、カメラや従来の底蓋に取り付けることができません。ご注意ください。

※レンズの取り扱いには44頁をごらんください。

ミラーと絞りとシャッターの図



【ピントの調節】

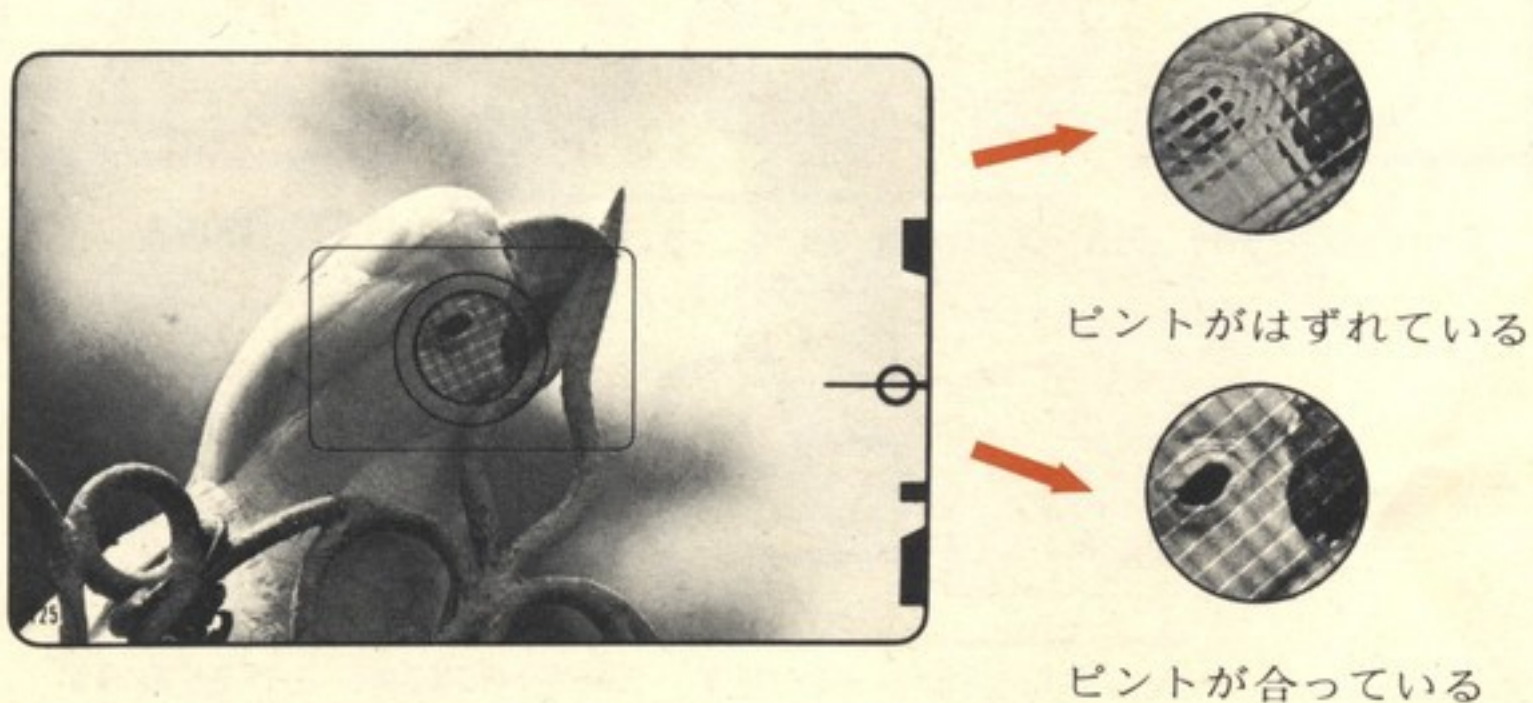
ファインダーを覗きながら、レンズのフォーカシングリングを回します。

ファインダー視野中央の、円形内の像が一致したときピントが合い、くずれたときピントがはずれます。

●視野中央の円形は、微細な特殊プリズムを合成した焦点調節スクリーンです。ピントが合ったときは、円形内の像と同一距離にある被写体は、円形外の視野でも同じく鮮明に見えます。したがって平面的な被写体の場合には、円形外のマットガラス面でもピント合わせを行うことができます。

●光線の状態によっては、ファインダー下方に、左右に走る円弧状の輝線が見えることがあります。これは、測光のためのミラーコンデンサーの接合面によるもので、撮影には何ら支障はありません。むしろキヤノンのすぐれた測光方式によるもののご理解ください。

●FD55mm F12 レンズ付きで三脚へ取り付ける場合、フォーカシングがやりやすくするため、カメラホルダーFをご利用ください。



〈視度補正レンズ〉

ファインダーには視度補正レンズが用意されており、接眼部に取り付けると近視や遠視の方が眼鏡なしで鮮明なファインダー像を見ることができます。

	+15	0	-25	-4	ジオプターの4種
適用度数	+22°~∞	-25°~∞	-10°~-20°	-7°~-11°	
	遠視側			近視側	

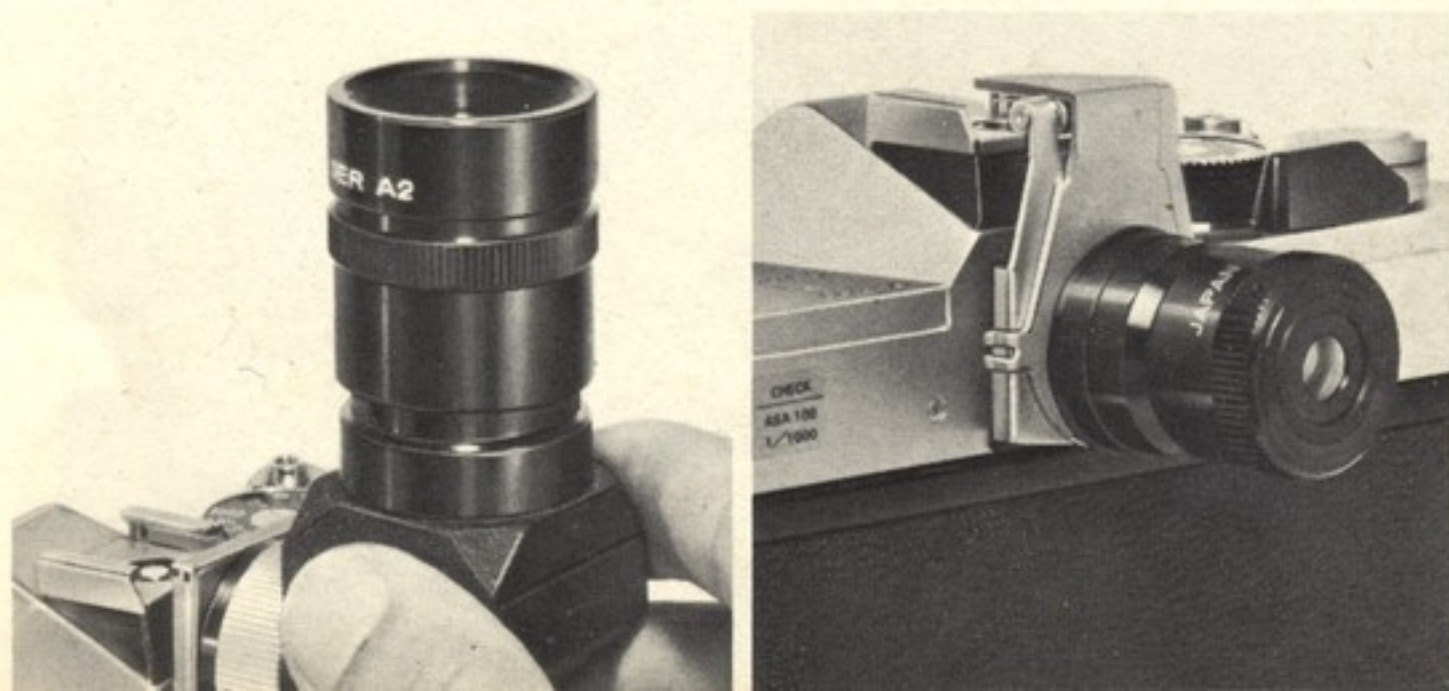
〈アングルファインダー〉

接眼部に上方からさし込んで使用する胸高ルーペです。上方あるいは横位置にして覗けますから、複写、接写、拡大、顕写等のコピーワークや低位置からの撮影に便利です。

簡易型のA2型と、高級型のB型があり、A2型は、左右反対像B型は完全正立像が見えます。

〈マグニファイヤー〉

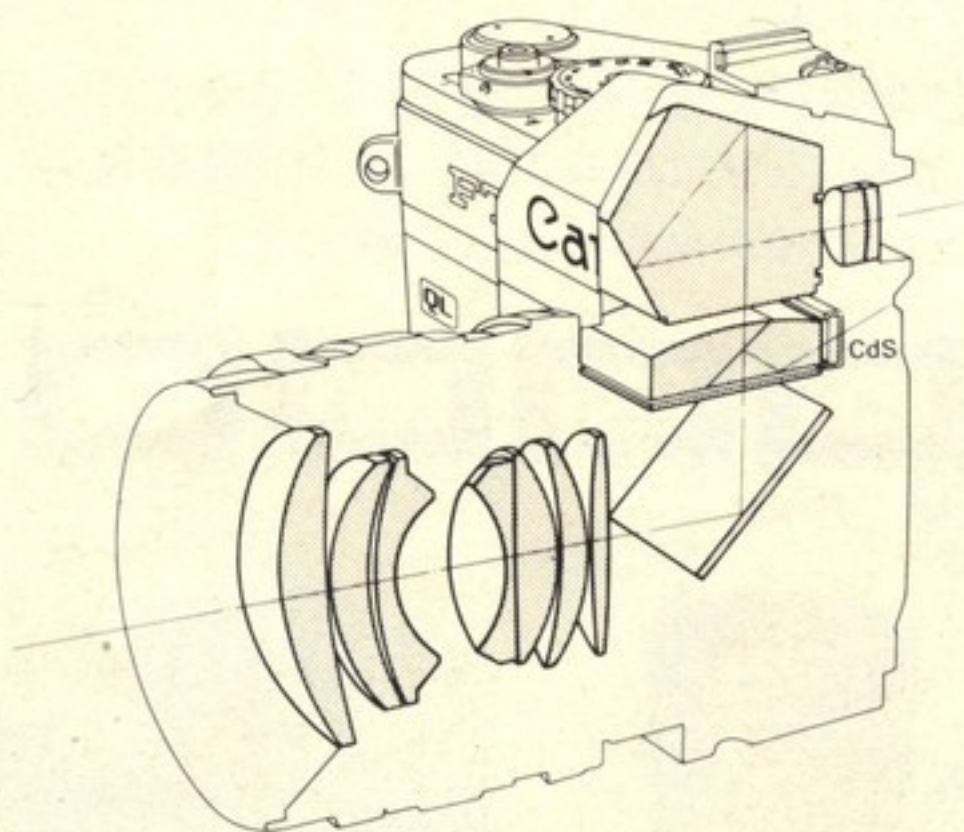
ピントグラス拡大観察用直視ルーペです。アダプターと併用して上方から接眼部にさし込んで使用し、更にマグニファイヤー全体を上方にはね上げできるため、ピント確認後直ちに視野全体を眺めるといふ撮影操作が続けられます。



【TTLメーターの使い方】

キヤノンFTbは、FDレンズとの組合わせでシャッタースピード、フィルム感度およびプリセット絞りリングに連動する追針式のTTL開放測光機構をもっており、焦点面に最も近い位置にCdSがありますから、きわめて正確な露出決定ができます。開放のまま測光するため、レンズの開放F値伝達を自動的に行なう機構を組込んであり、どの明るさのFDレンズを取り付けても操作は変わりません。

またFLレンズを取り付けた場合には、絞り込みによる測光が可能です。露出のきめ方には、シャッターを先に選ぶ場合と絞りを先に選ぶ場合の2通りありますが、いずれの方法にも慣れることがよい写真を撮るために必要なことです。



《その準備(フィルム感度のセット)》

フィルム装填後、使用フィルムのASA感度を小窓に出します。それにはシャッターダイヤル周囲の感度セットリングをつまみ、持上げてから回します。フィルムがSS級なら100を出し、リングを落とし込んでセットします。

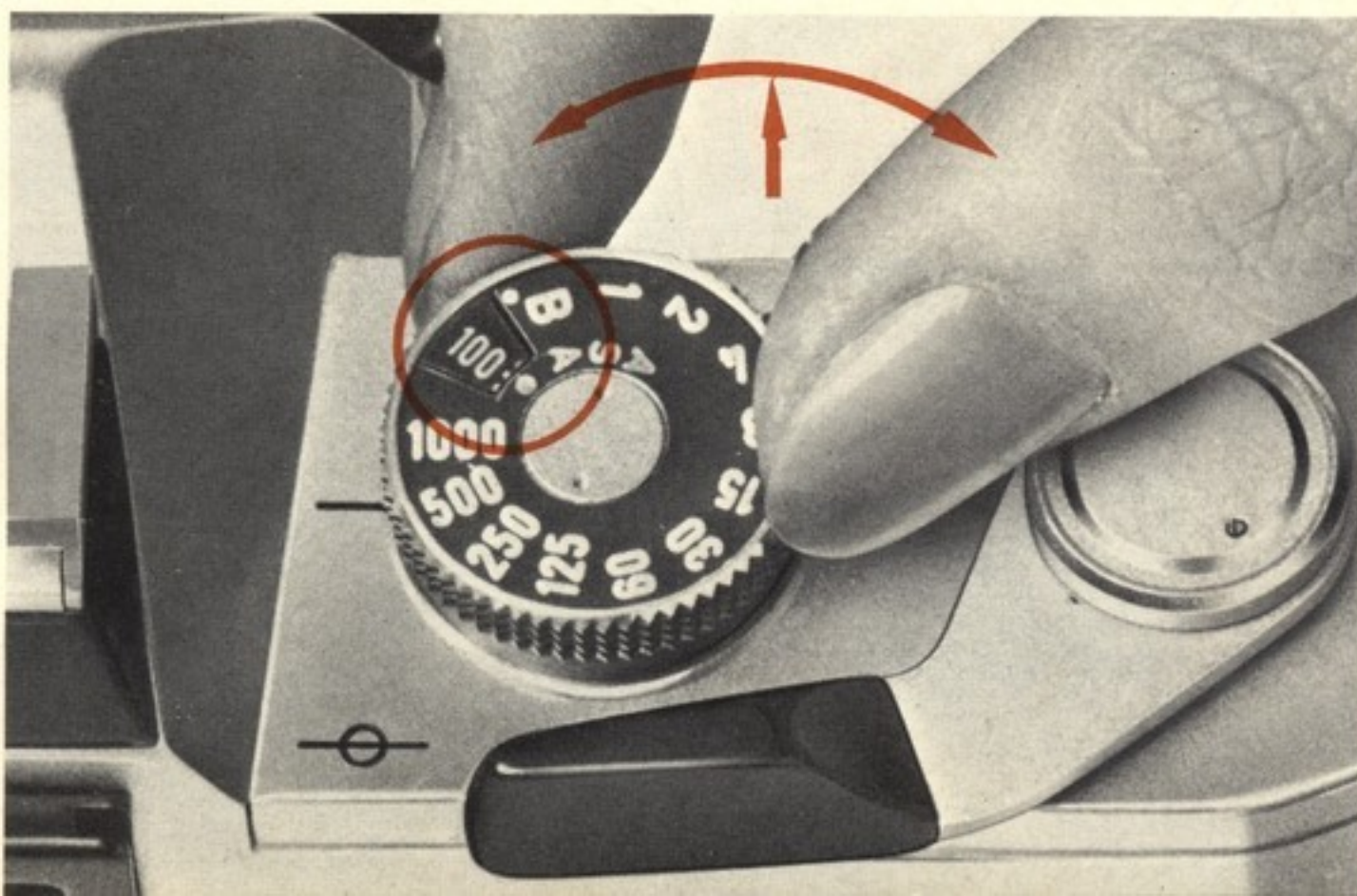
感度セットは、小窓にASA25が出たらそれ以上左へ回せません。逆に2000(・)が出たら右へ回せません。

《使用できるフィルム感度》

	(32)(40)	(64)(80)	(125)(160)	(250)(320)	(500)(640)	(1000)(1250)	(2000)
ASA	25	50	100	200	400	800	1600
(DIN)	15 16 17 18 19 20	21 22 23 24 25 26	27 28 29 30 31 32	33 34			

上記カッコ内の数字は、中間の点に相当する感度です。

フィルム感度は光に感ずる速さで、フィルム外装箱または説明書に明記されています。



【開放測光】

開放信号ピンのあるFDレンズを取り付けた場合、開放測光ができます。開放測光とはプリセット絞りリングをセットするだけで測光する方法です。この場合、絞り羽根は開いたままですから、ファインダーが暗くなりません。

1. メータースイッチをONにします。

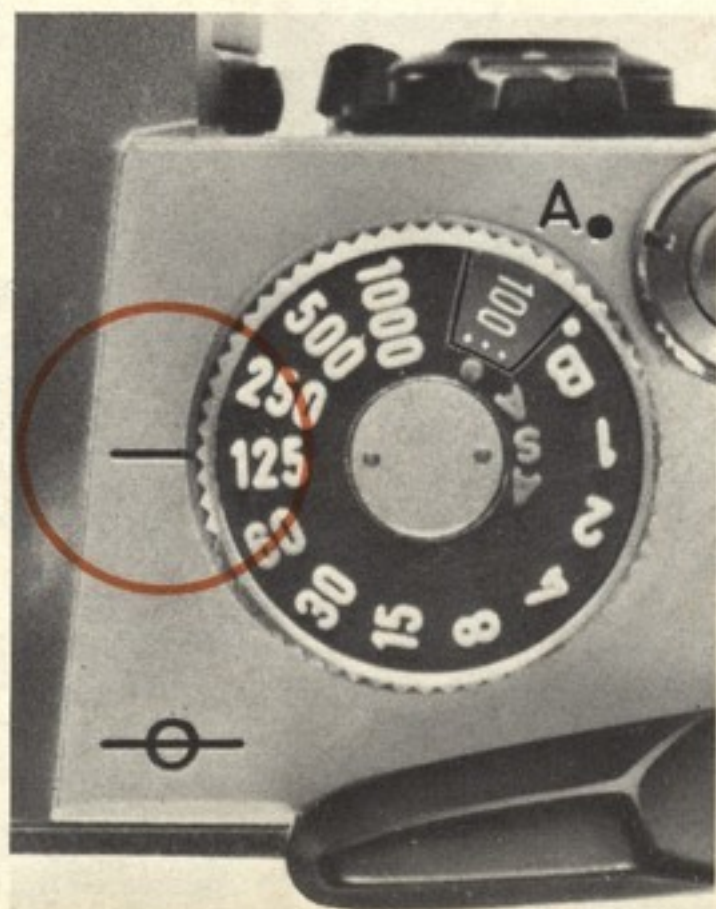
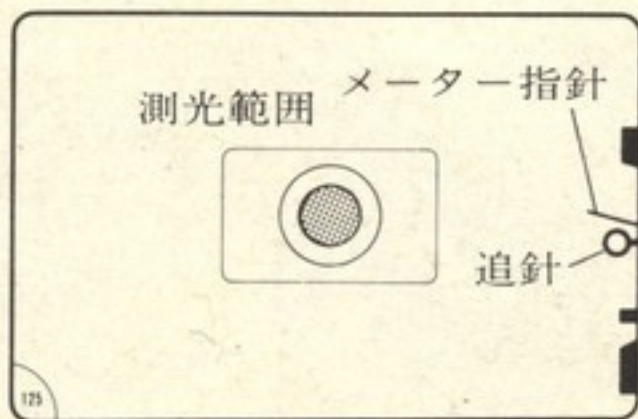
2. シャッタースピードをきめます。

一般には室内は $\frac{1}{30}$ ~ $\frac{1}{60}$ 、曇天戸外 $\frac{1}{125}$ 、晴天 $\frac{1}{250}$ 以上(ASA100の場合)が適当です。

3. カメラを被写体に向けてファインダーを覗き、ピントを合わせます。

4. 中央長方形部が測光する範囲です。被写体の主要部に向けてください。

この部分がメーター受光部と同一面積になっており、この範囲に、被写体の中心となる部分を入れて測る方式です。したがって、従来のメーターではむずかしかった逆光時の



露出決定も容易で、つねに撮影者の作画意図を生かした露出がきめられます。

5. 右側のメーター情報を見てください。

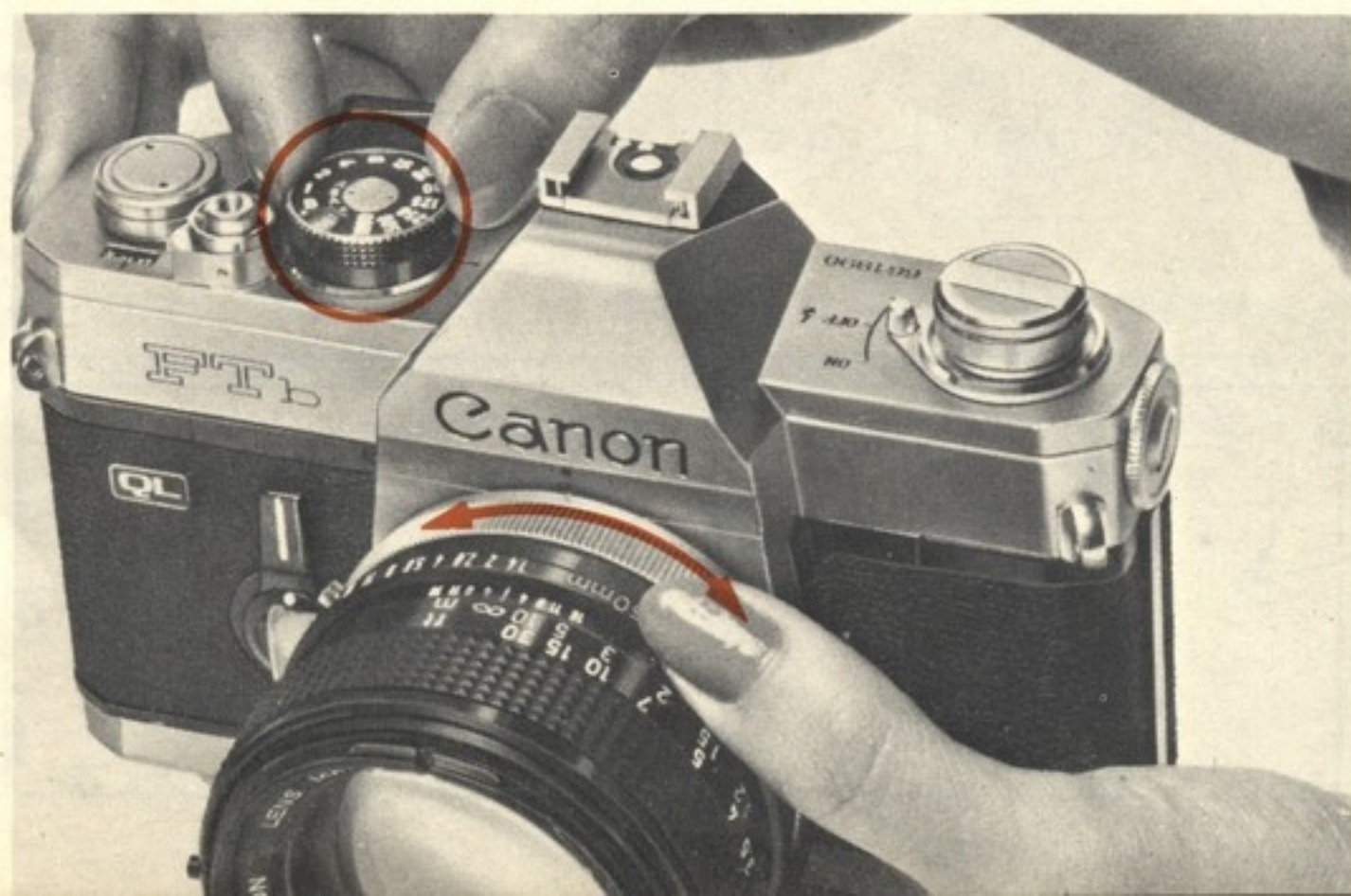
指針が2つあり、メーター指針はASA感度とシャッタースピードに連動し、また被写体の明るさに応じて上下します。丸の追針は、FDレンズのプリセット絞りリングに連動しています。

6. したがって、シャッタースピードを先にきめた場合には、プリセット絞りリングを回して、メーター指針に追針の丸を重ね合わせると適正露出にセットされます。

7. 逆に、絞りを先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して追針の丸にメーター指針を重ねます。

●追針の丸は中央が適正露出で、直径は1絞りの範囲を示します。

8. プリセット絞りリングを回してもメーター指針と追針が合わないのは、シャッタースピードが適切でない場合です。シャッターダ



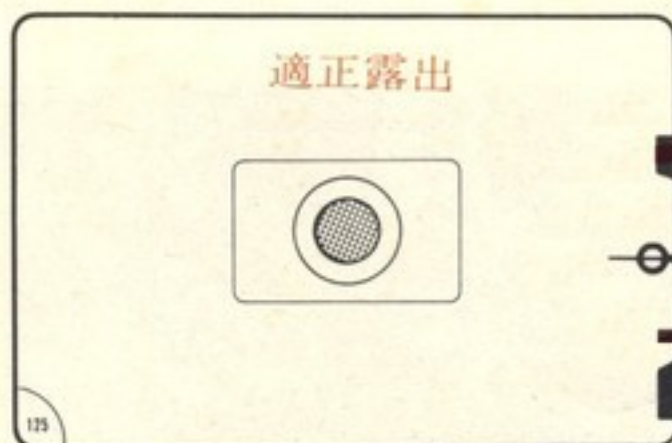
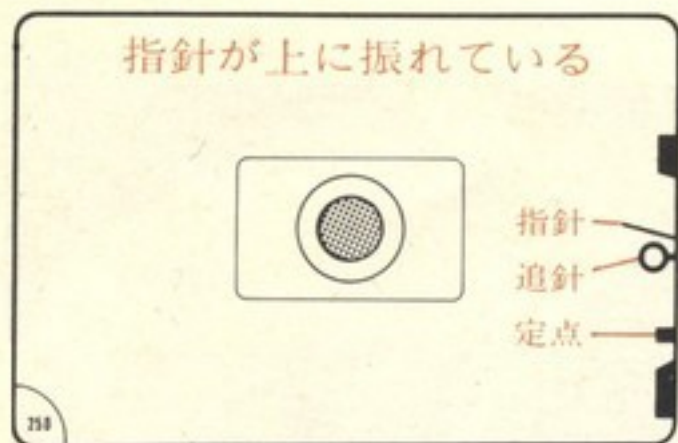
イアルを回して重ねてください。追針のメーター情報窓での移動範囲は、使用レンズの開放Fナンバーによって変り、メーター情報窓の上下一杯に動くとは限りません。シャッタースピードを変えるのは、その追い切れない場合です。

9. シャッタースピードを高速側にセットするとメーター指針が下へ移動し、遅くすると上へ移動します。シャッタースピードがメーター連動範囲外のスロースピード(ASA100の場合 $\frac{1}{2}$ 秒以下)にセットされると、ファインダー下部には赤マークが出て警告します。

この条件下では絞りを变えても測光できません。フラッシュ撮影に切り換えるか、高感度フィルムの使用またはブースターで測光することになります。

●メーター指針が追針より上に振れている場合、シャッタースピードを速くします。

●メーター指針が追針下に振れている場合、シャッタースピードを遅くしてください。



10. メーターを使用しないときには、水銀電池の消耗を防ぐためスイッチをOFF ↓ にしてください。
切り忘れても、電流消費量はわずかですから、余り心配にはなりません。
11. シャッターダイヤルがB目盛では測光できませんし、意味もありません。
12. 逆光時には必ずレンズフードをご利用ください。
13. メーターの使用時、明るさの変化によって針の動きが鈍る場合もありますが、CdS の特性によるもので故障ではありません。

メーター連動範囲

ASA	連動するシャッタースピード										
25	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000
50	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000	
100	4	8	15	30	60	125	250	500	1000		
200	8	15	30	60	125	250	500	1000			
400	15	30	60	125	250	500	1000				
800	30	60	125	250	500	1000					
1600	60	125	250	500	1000						
	22	22	22	22	22	22	22	22	16	11	8
	← 連動する最小絞り →										

読み方はASA100のフィルムを使用した場合100の欄を横に見ます。シャッタースピードは $\frac{1}{4}$ から $\frac{1}{1000}$ まで連動することがわかります。各シャッタースピードに対する絞りは、最大開放F値から上表下段に示された最小絞り値まで連動します。

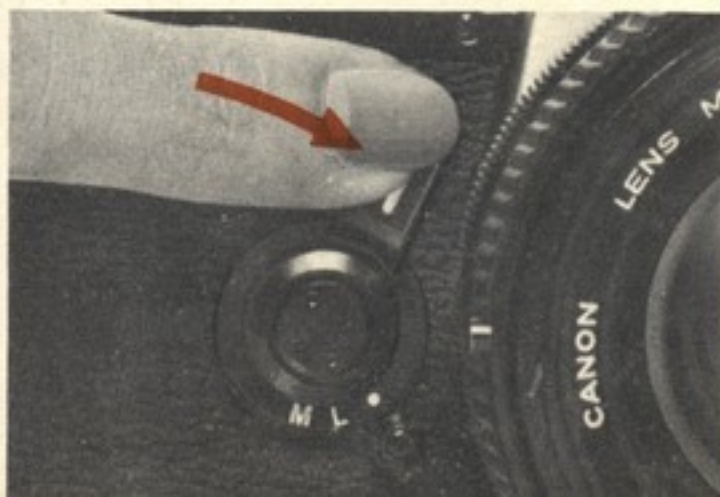
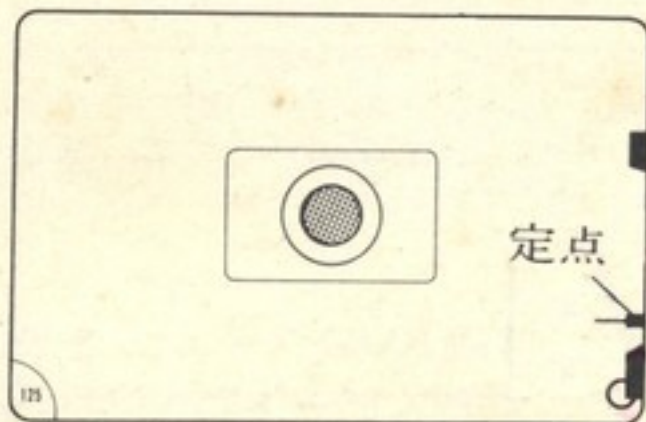
【絞り込み測光】

開放測光信号のないFLレンズを取り付けた場合には、絞り込み測光を使います。絞り込み測光とは絞り羽根を実際に絞り込んだ状態、つまり撮影時同様の光線状態で測光する方法です。絞り込み測光は絞り込みレバーを倒して行ないます。

1. シャッタースピードをきめます。
2. カメラを被写体に向けてファインダーを覗き、ピントを合わせます。
3. 測光部を被写体に合わせ、絞り込みレバーを倒すと、絞りが絞られます。このとき追針は下部警告マーク内に逃げ、メーター指針のみ残ります。
4. そのままプリセット絞りリングを回して、定点にメーター指針が入るように調節します。メーター指針が入れば絞りは適正露出にセットされます。

●定点は中央が適正露出で、上下で約 $\frac{1}{2}$ 絞りになっています。

5. 絞りを先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して



調節します。その場合シャッターダイアルのクリックストップに必ず入れてください。

6. 絞り込み測光レバーは、倒すと絞りがプリセット位置まで絞り込まれ、レバーから指を離すとレバーが戻り、絞りも開放に戻ります。

ロックレバーをL位置に回しておくと、レバーを倒したさい絞りが手動にロックされ、レバーから手を離しても開放に戻りませんから、操作が楽になります。

またロックしたままシャッターを切ることができますから、測光後も開放に戻さず、そのままシャッターを切ってください。ピント状態も確かめられ、かつショックが少なく速写性も増します。

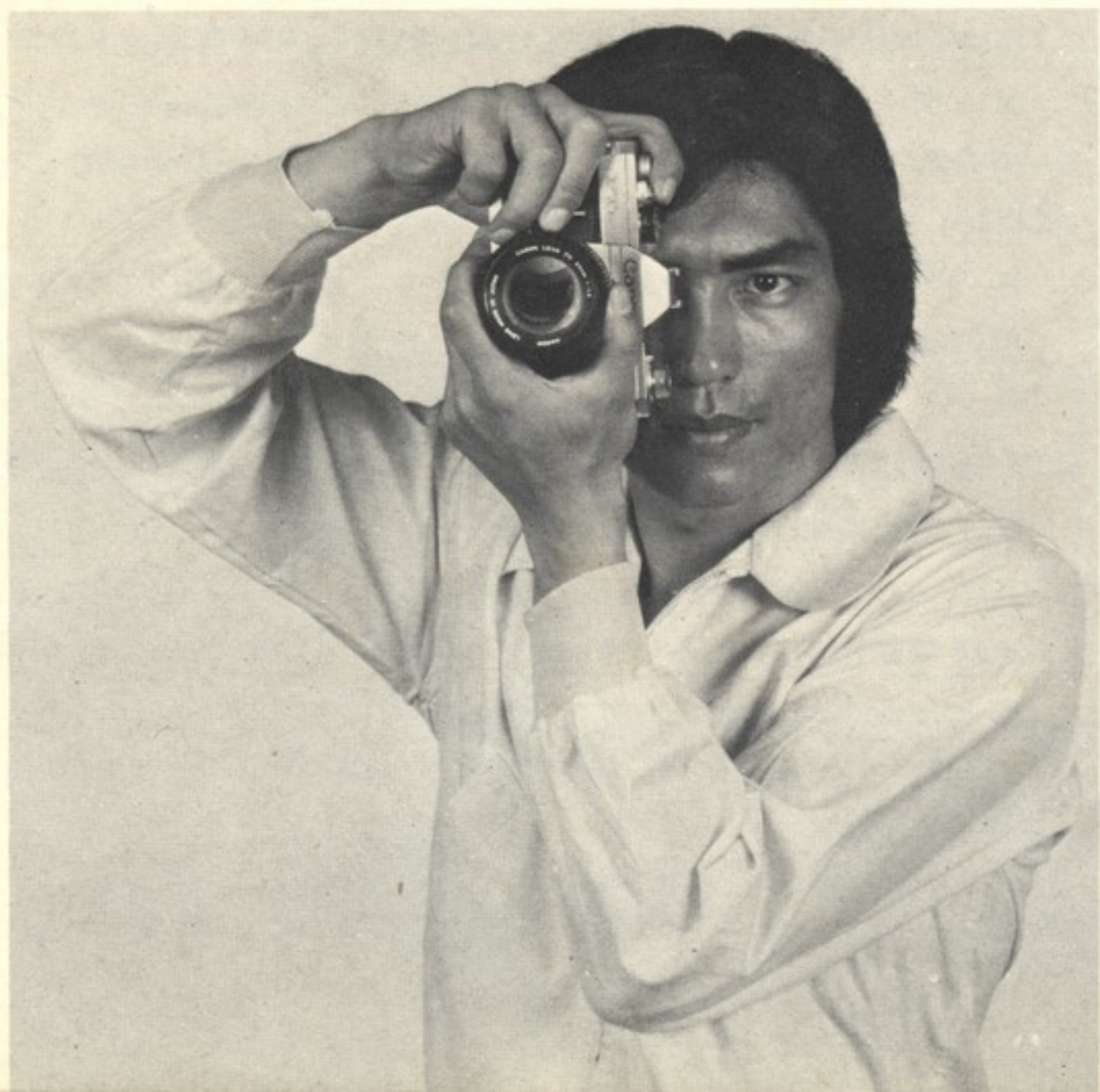
ロックレバーを元の位置に戻せば、絞り込みは解除されます。

7. メーター指針が定点より上方にあり、絞りを絞っても定点に合わない場合には、シャッタースピードを速くしてください。
8. メーター指針が定点より下方にあり、絞りを開いても合わない場合にはシャッタースピードを遅くしてください。
9. ファインダー下部に露出警告の赤マークが出たら、メーター連動範囲外ですから、フラッシュを使用するか、ブースター測光に切り換えてください。
10. FDレンズには開放F値補正信号があり、絞り開放のときに正確な露出を与えるようメーターを補正してあるため、原則として開放測光をおすすめします。
11. FDレンズとFTbの組み合わせでは、開放測光で正しい露出が得られます。
12. FLレンズとFTbの組み合わせでは、絞り込み測光で正しい露出が得られます。

【カメラの構え方】

撮影のさいカメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真を撮影するために大切です。カメラは縦位置、または横位置の状況にしたがって写真のようにもち、ファインダーを覗いて構図と露出をきめ、ピントを合わせてから静かにシャッターを切ります。そのさい特に次のことが大切です。

1. 両手はつとめて深くカメラを握り込むこと。
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
3. 横位置のときは両ひじを、縦位置のときは少なくとも一方のひじを、ピッタリ体に付けること。



4. シャッターボタンを乱暴に押すとカメラブレの原因になります。静かに押してください。
5. 撮影には三脚とケーブルリリースの使用をおすすめします。特に望遠レンズや遅いシャッタースピードを使用するときは絶対必要です。
6. 三脚使用のためのカメラホルダーFおよびキャノンリリースが用意されています。ご利用ください。

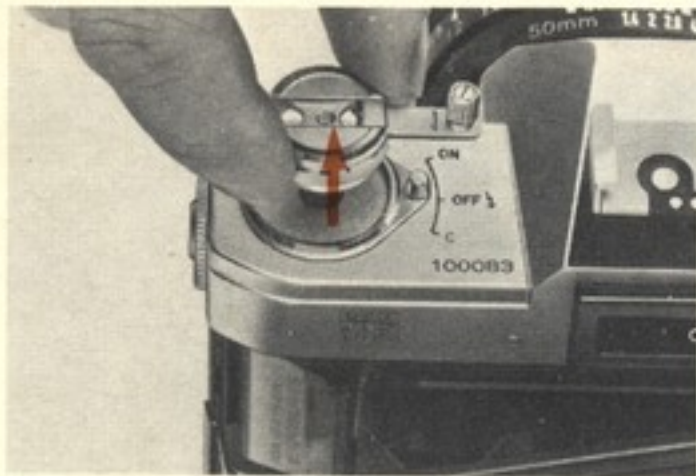


【フィルムのつめ方(QL装填)】

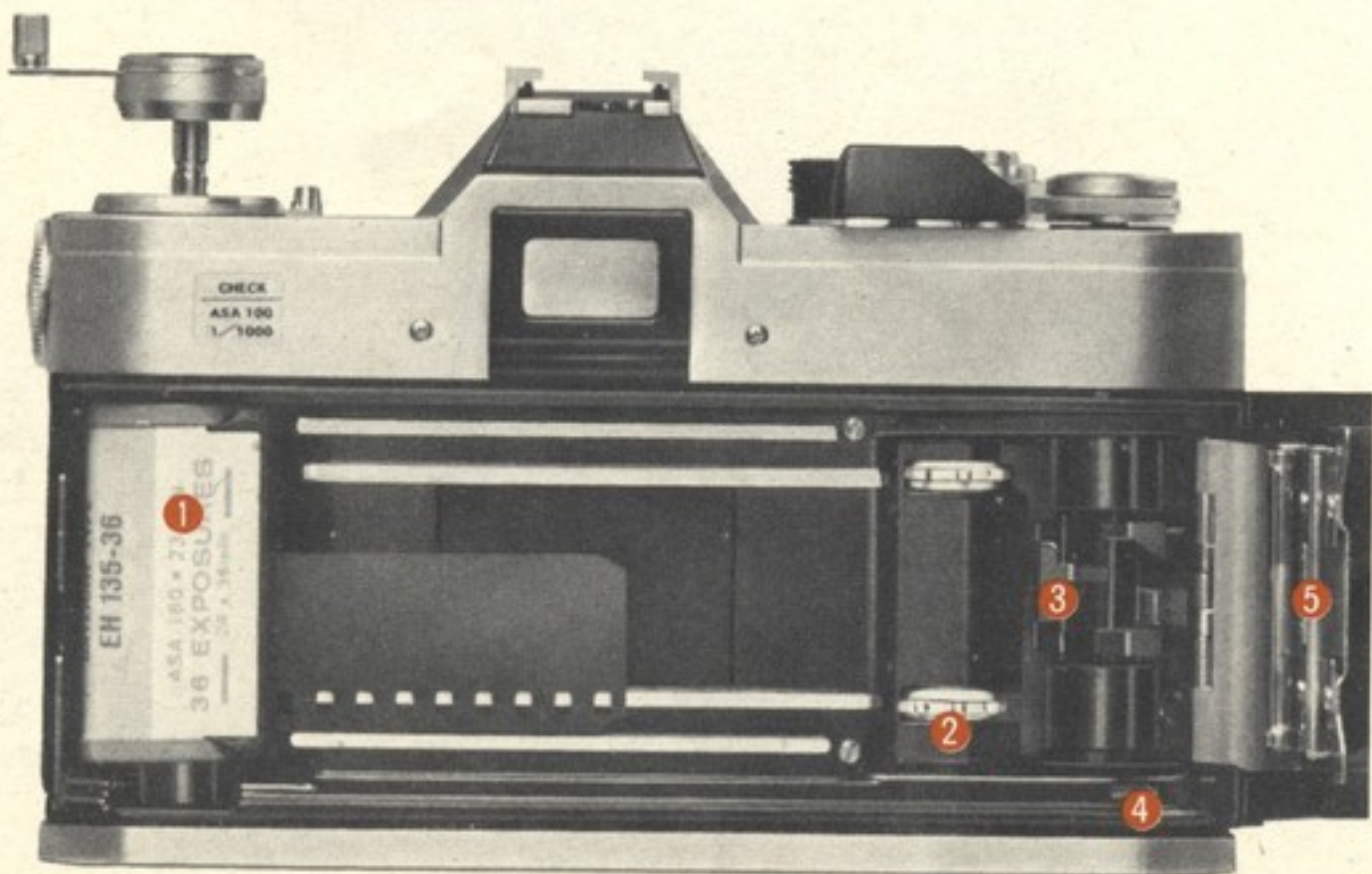
使用フィルムは市販の日中装填用パトローネ入り35mmフィルムです。装填のさいは直射光下をさけてお取り扱いください。

1. 裏蓋を開きます。

巻き戻しノブを上方に引上げると裏蓋が浮き上がりますから開いてください。巻き戻しノブは一杯に引上げた状態にしておきます。



1. パトローネ室
2. スプロケット
3. QLスプール
4. フィルムセット位置マーク
5. QLカバー

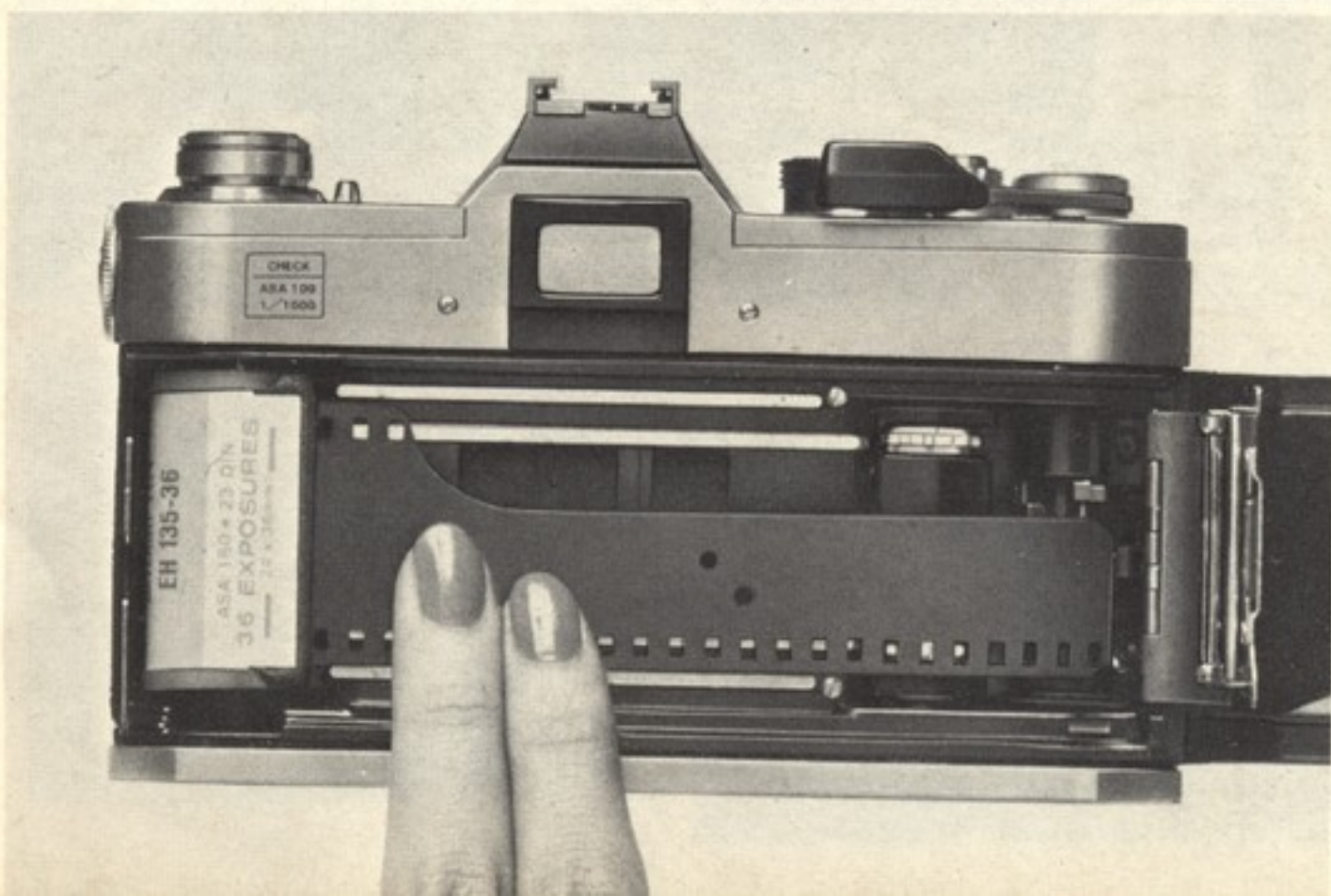


2. フィルムをつめます。

パトローネ軸の出張りを下向きにして、パトローネをフィルム室に入れます。巻き戻しノブを押し下げて先端をパトローネ軸にさし込みます。ノブが完全に戻り切れないときは、押し気味にして左右にわずか回すとさし込めます。

3. フィルムを引き出し、先端をセット位置マークに合わせQL爪の上にのせます。そのさいフィルムを出しすぎてパトローネ口が浮かないよう気を付けてください。

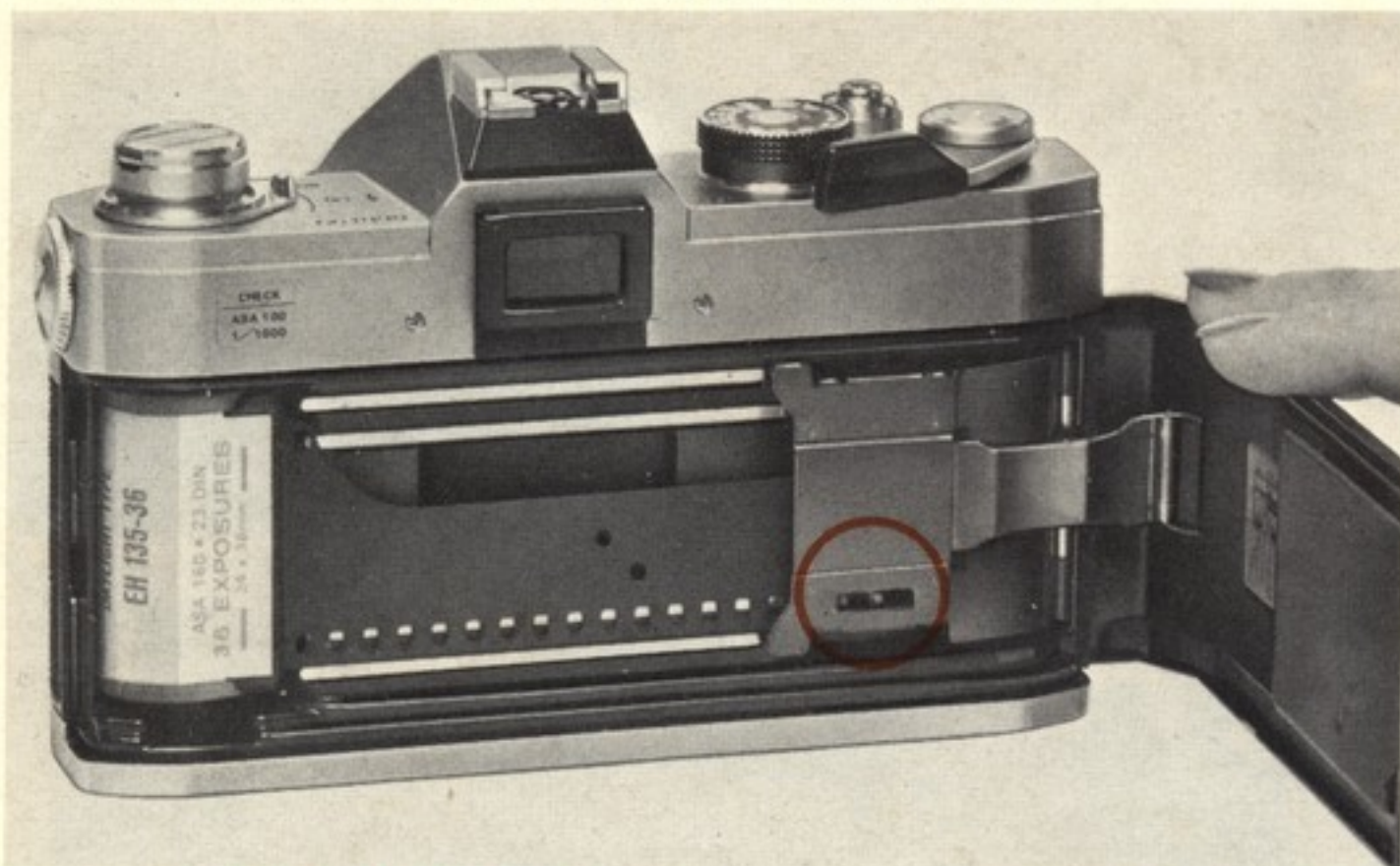
4. パトローネのフィルム口を浮かないよう左手で押え、



- 裏蓋を半ば閉じると、QLカバーがフィルムをおさえます。
このとき確認窓内でフィルム穴(パーフォレーション)がスプロケットの歯にかかっていたら、
- 裏蓋を閉じます。裏蓋は押し付けるとロックされます。
- 3回空写しをします。

レンズキャップをかぶせたまま、巻き上げてシャッターを切る操作を3回繰り返すと、フィルムカウンター目盛がSから0になり、次に巻き上げると1枚目を表わす点に進み、撮影準備が完了します。

※ QLカバーは、フィルム送りに重要な役目を果たしていますので直接手でさわらないようご注意ください。



フィルム枚数計Sから0へ



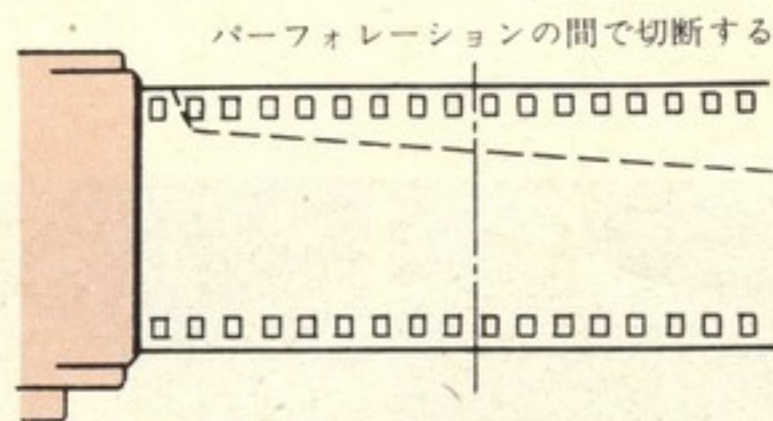
暗室装填用長巻きフィルムを使用するときは、下図のように切断し、先端を巻き取り方向に巻きぐせをつけてください。

〈フィルム感度表示〉

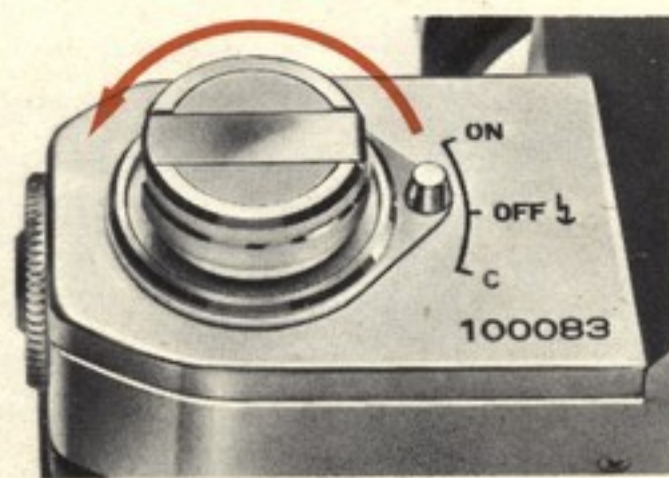
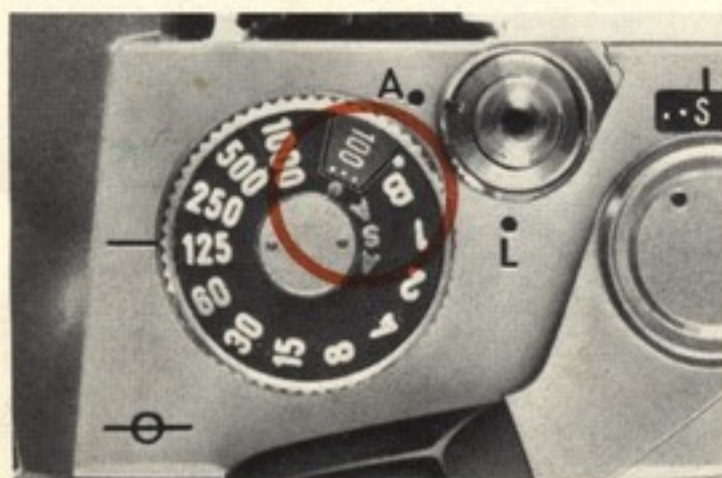
フィルムの装填をしたときは、忘れずにフィルム感度をシャッターダイヤルの小窓に表示してください。表示のしかたは、25頁参照。感度を合わせませんとメーターによる適正露出が得られなくなります。

〈フィルム装填の確認〉

巻き上げをするたびに、巻き戻しノブが反時計方向に回れば、フィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければ、フィルムにたるみがあるか、スプロケットにパーフォレーションがかかっていない場合です。巻き戻しノブを回してたるみをとっても、巻き上げ時に巻き戻しノブが回らない場合には、いったんフィルムを巻き戻してから装填しなおしてください。ただしフィルム全部をパトローネに巻き込まないようにご注意ください。



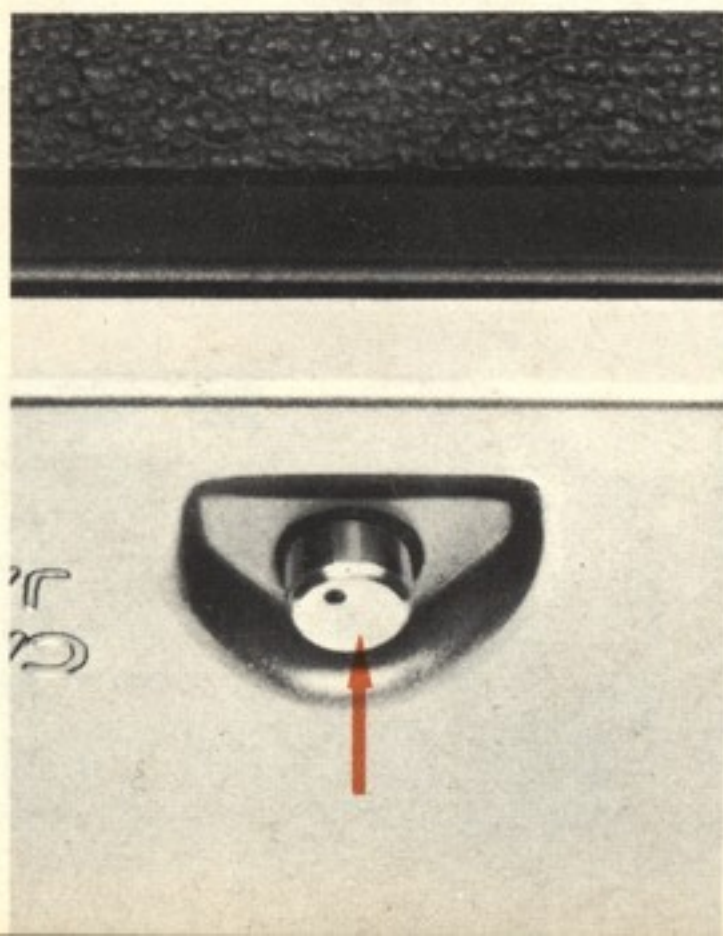
ASA感度



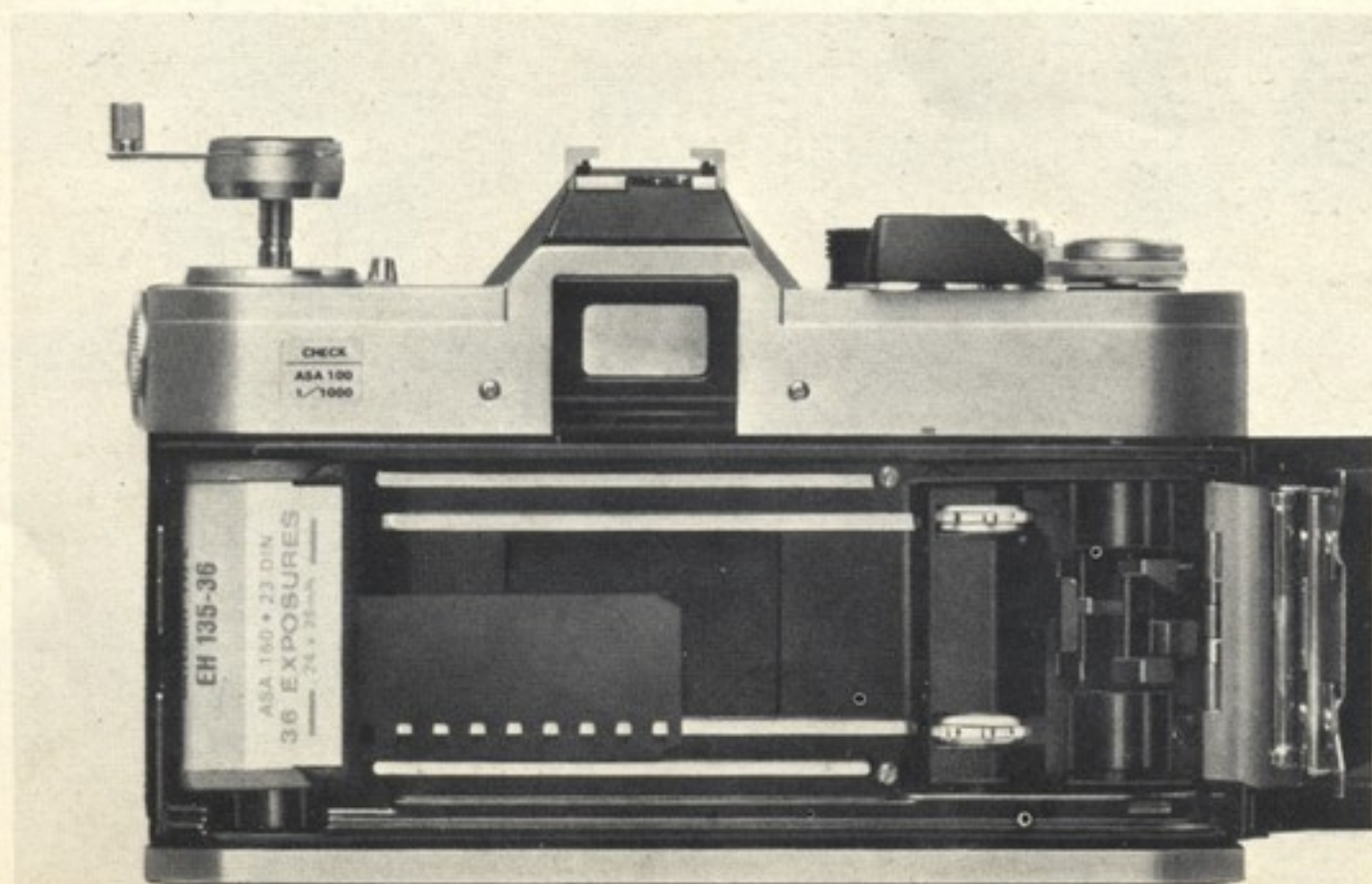
【フィルムの巻き戻し】

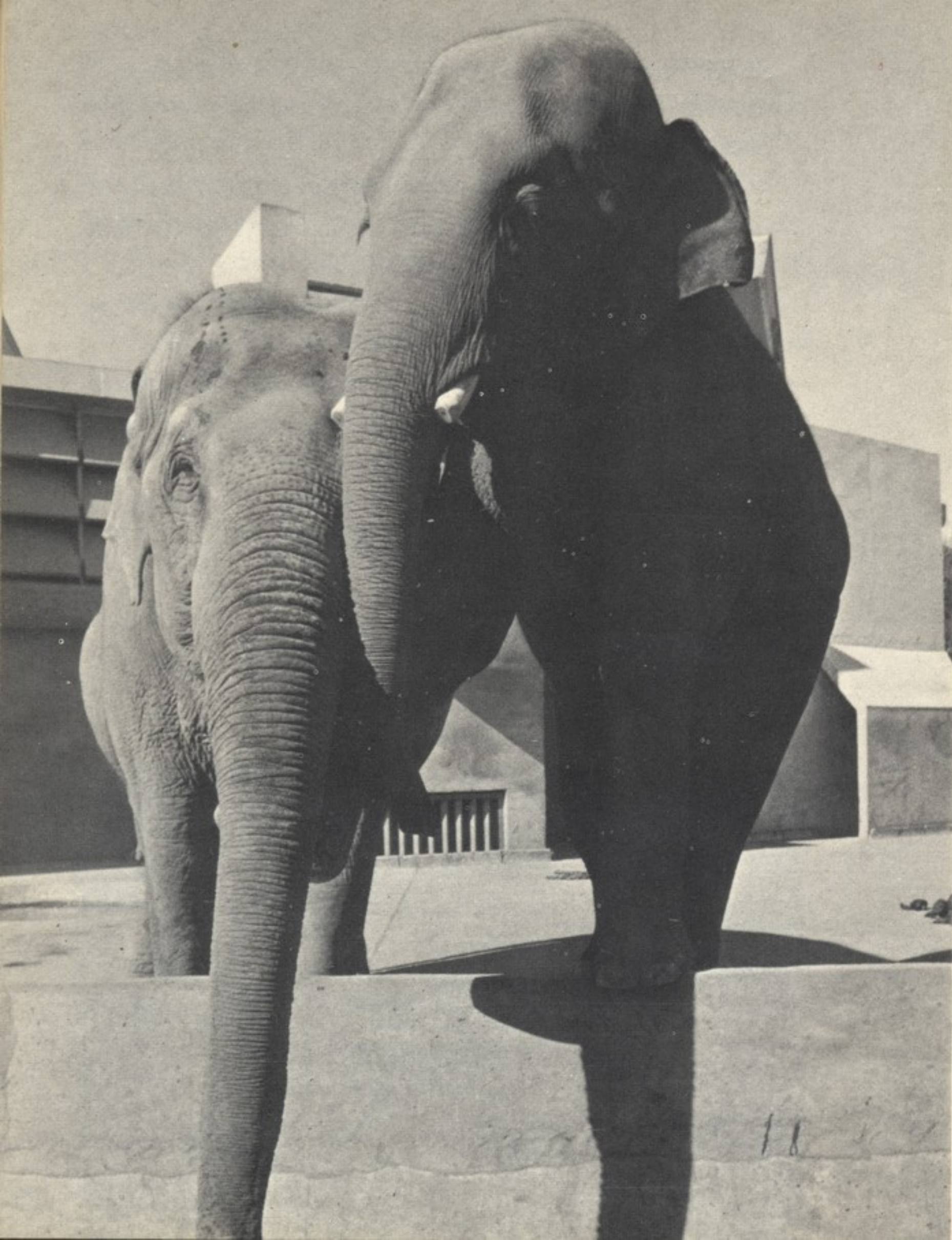
撮影されたフィルムは、カメラの中で裸のまま巻き取られていますから、そのまま裏蓋を開くとフィルムを全部無駄にしまいます。撮影後は、必ずフィルムを元のパトローネ内に巻き戻してください。

1. フィルムが終りになると、巻き上げがきつくなりますから巻き上げを止めます。
2. カメラ底部の巻き戻しボタンを押し込みます。ボタンは一度押せば指を離してもさしつかえありません。
3. 巻き戻しクランクを起こし、巻き戻しクランクに刻印された矢印方向に回し、フィルムをパトローネ内に戻します。巻き戻し中、抵抗が軽くなり巻き戻しボタンの回転が止まったら、巻き戻し操作を止めます。



4. 裏蓋を開き、パトローネを取り出します。
5. 巻き戻しボタンは、巻き上げレバーを1回巻上げると元の位置に自動的に戻ります。
6. フィルムが終りになっているのに無理に巻き上げると、フィルムがパトローネ軸からはずれたり、切れたりして巻き戻しができなくなります。ご注意ください。
この場合暗室またはダークバッグの中で、裏蓋を開いて巻き戻してください。
7. フィルム装填が不確実で装填し直す場合、巻き戻し過ぎてパトローネ内にフィルムを巻き込んでしまいますと、装填できなくなりますからご注意ください。





【セルフタイマー】

1. 巻き上げレバーを巻き上げ、シャッターをチャージします。
2. セルフタイマーレバーを下図に示す矢印方向に止まるまで一杯に回し、(内側の矢印)
3. シャッターボタンを押してください。
4. まずセルフタイマーレバーが作動し、約10秒後に露出が行なわれます。
5. シャッターチャージを忘れると、セルフタイマーレバーのみ動き、シャッターは作動しません。
6. セルフタイマーレバーは、巻き上げ後、定位置に戻して測光に使用することができます。
7. ミラーロックした状態で、セルフタイマーレバーをセットすると、ミラーロックは解除されてしまいます。セルフタイマーをセットしてからのミラーロックは可能です(52頁参照)。
8. セルフタイマーセットを途中で止めると、シャッターがロックされ、押せないことがあります。このときは、セルフタイマーレバーを一杯に回せば解除されます。



【フラッシュ同調】

本機では直結式専用ストロボ，キヤノンスピードライト133D使用による追針式のフラッシュオート撮影と，普通の発光器による同調撮影ができる設計になっています．前者をCANON AUTO TUNING SYSTEM，略してキャッツ(CATS)と呼びます．キャッツに接続使用できるレンズはFD 50mm F 14， F 18およびFD35mm F 2， F 35，の4本で，距離信号を伝えるフラッシュオートリングを併用します．FTbのキャッツはストロボの充電電圧量と撮影距離が信号としてメーター回路に入りますから，プリセット絞りリングを回してメーター針に追針を重ねるだけで適正露出が得られます．

キャッツ撮影は，シャッターが $\frac{1}{60}$ 秒専用，メータースイッチをOFF ↓ で使用します．一般のストロボおよびフラッシュユニットの場合は，感電防止カバーを矢印方向に動かし，フラッシュターミナルソケットにコードを差し込み使用します．その場合の露出は，ガイドナンバーを撮影距離で割り，絞りを算出してセットします．算出単位はガイドナンバーがメートルなら撮影距離もメートルを使用し，メートルとフィートを混用してはなりません．スピードライト133Dで指定以外のレンズを使用する場合も同様に算出して使用できます．フラッシュターミナルはJIS B型です．

同調表 ●本機のX接点は目盛60です．

フラッシュバルブ	シャッタースピード											
	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B
FP級	○	○	○	○	×	※○	○	○	○	○	○	○
M, MF級	×	×	×	×	×	※○	○	○	○	○	○	○
ストロボ	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○

※ $\frac{1}{30}$ 秒の場合バルブのバラつきにより多少露出ムラのあることがあります．

×の部分は使用できません．

※CATSは $\frac{1}{60}$ 秒専用です．

〈フラッシュオートリング用距離信号ピン〉

キヤノン独自のフラッシュオート式ストロボ用距離信号ピンでキヤノンFD50mm F 14, FD50mm F 18, FD35mm F 2, FD35mm F 35, の4本のレンズについており、フラッシュオートリングを取り付けたさい、撮影距離つまりフォーカシングリングの回転量をそのリングを通じてメーターに伝達します。

これによってガイドナンバーの計算なしに、プリセット絞りリングを回して追針式に、ファインダー内で露出の決定ができるしくみになっています。

フラッシュオートリングは、レンズ前面に取り付け、コードにより専用ストロボ、キヤノンスピードライト133Dに接続します。



【レンズの取り扱い】

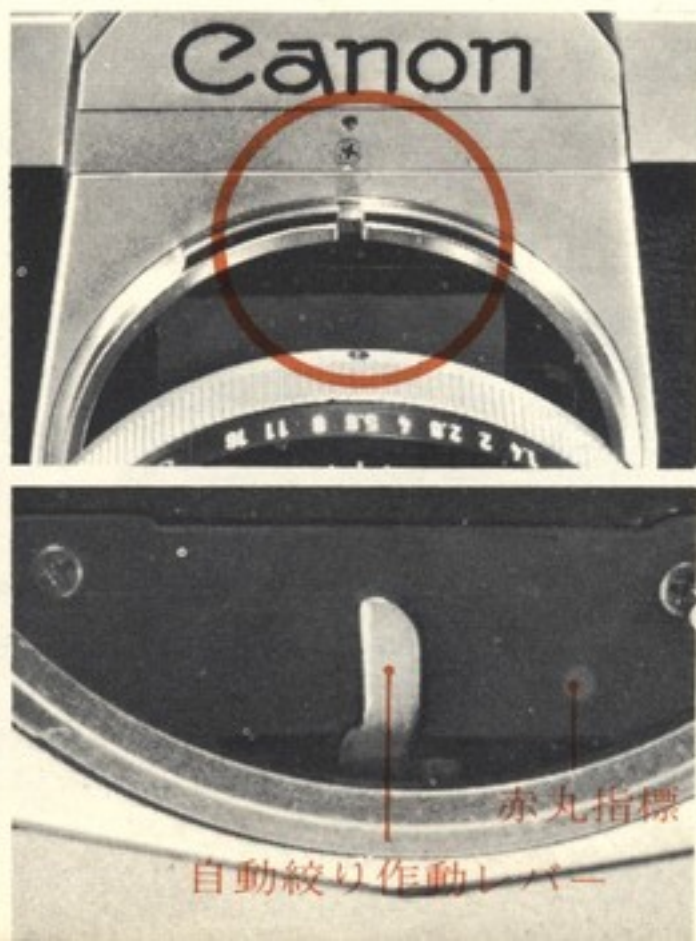
〈レンズの交換〉

1. カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを反時計方向に回し、リングの赤点とボディの赤点が合った位置で前方に引出します。

レンズを取り付けるには、カメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてはめ込み、バヨネットリングを時計方向に回して締め付けます。

交換レンズの底蓋をはずす場合も同じ要領で、バヨネットリングを左回しに一杯に回してください。底蓋をはずしたらそのままの状態ボディに取り付けてください。

2. レンズ交換のさいには、絞り込み測光レバーのロックを解除しておいてください。ロックされたままの状態ですと、レンズの自動絞りレバーが、ボディの自動絞り作動レバーに連結しない位置になり、自動絞りがはたらかなくなりますから、ご注意ください。このときボディ連動部には、不作



動を知らせる赤丸指標が見え、注意を促します。

同じくレンズの自動絞りレバーが、正位置にあることを確かめてください。ロック位置にありますと、自動絞りが作動しません。

交換のさいには、直射光下を避け素早く行なってください。レンズを取り付けずにボディを放置しておくと、フィルムにカブリを生ずるおそれがありますのでご注意ください。

ボディやレンズのマウント部には、絞りの作動レバーをはじめ各種の信号があり、いずれも大切な部分ですから、レンズをはずしたときは、必ず蓋をかぶせて保護してください。

底蓋の取り付けは、ボディの取り付けと同じ要領で、底蓋位置ぎめ溝にバヨネットリングの赤点を合わせてはめ込み、リングを回して固定します。ただしプリセット絞りリングが緑色マークにセットされていると、従来の底蓋には取り付けできません。

レンズをはずした状態では、絞りレバーを動かしても羽根が動かず、また信号レバーも動かない安全機構になっています。故障ではありません。

《レンズ各部の説明》

●絞り信号レバー

自動絞りのプリセット絞り値をカメラ側に伝達するレバーで、プリセット絞りと1対1の動き量をもちます。このレバーはバヨネットリングを取り付け位置に回すと作動する状態にセットされる安全装置付きです。

●開放信号ピン

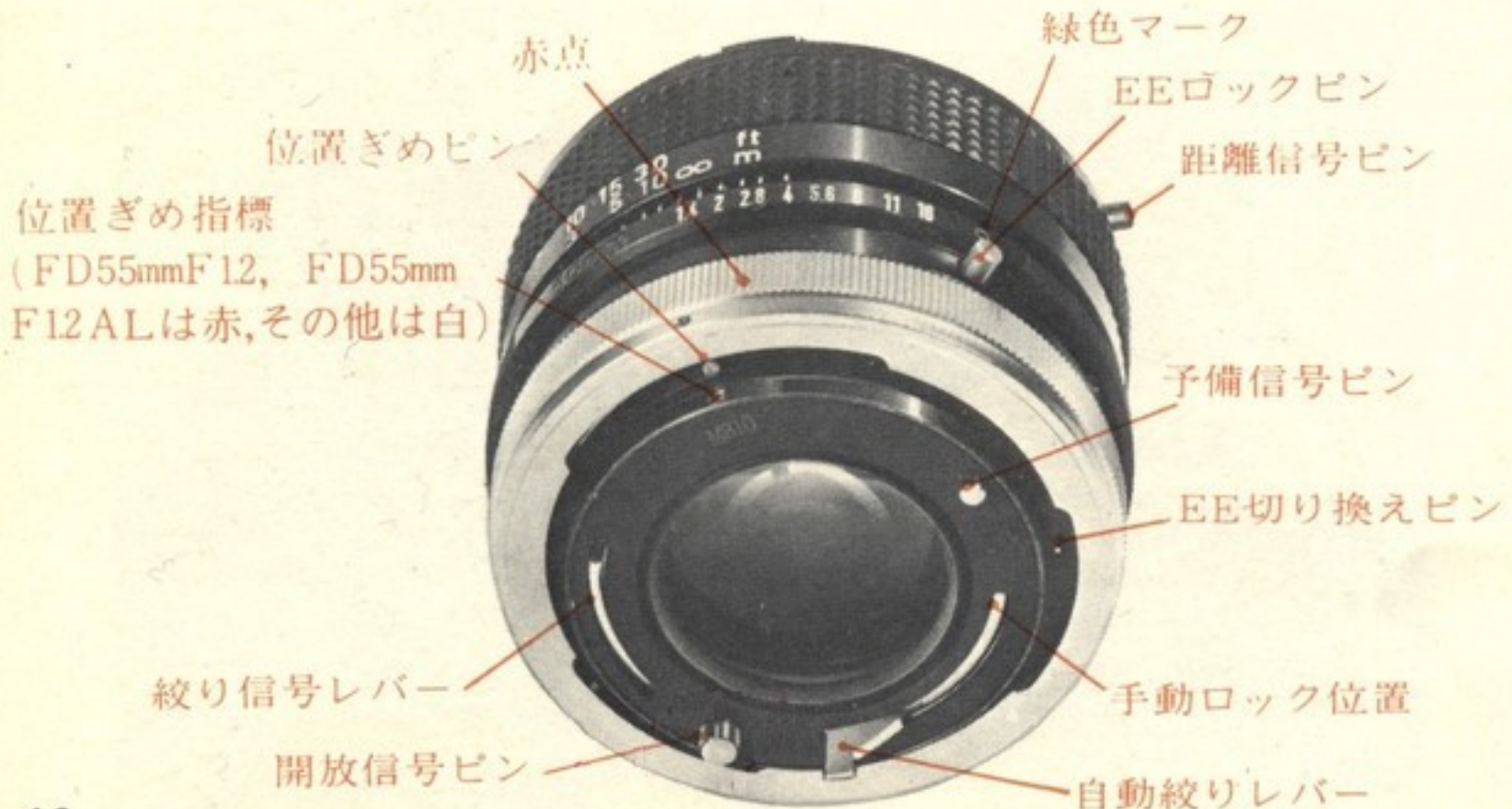
各レンズの絞り開放値の伝達ピンで、レンズ交換により開放F値が変わった場合でも、開放測光の誤差補正がレンズ装着時に自動的に行なわれます。

●自動絞りレバー

カメラと連動して、絞りをプリセット位置まで絞り込む連動レバーです。手動ロック位置にクランプして手動絞りとなります。

●EEロックピン

レンズの絞りが不用意に緑色マークに動かないようにする安全ピンです。



※ 緑色マークは EE 機構として使用する場合のセットマークで FTb には関係ありません。緑色マークにセットするには EE ロックピンを押しながら絞りリングを回します。はずす場合も押しながら回します。

●EE切り換えピン

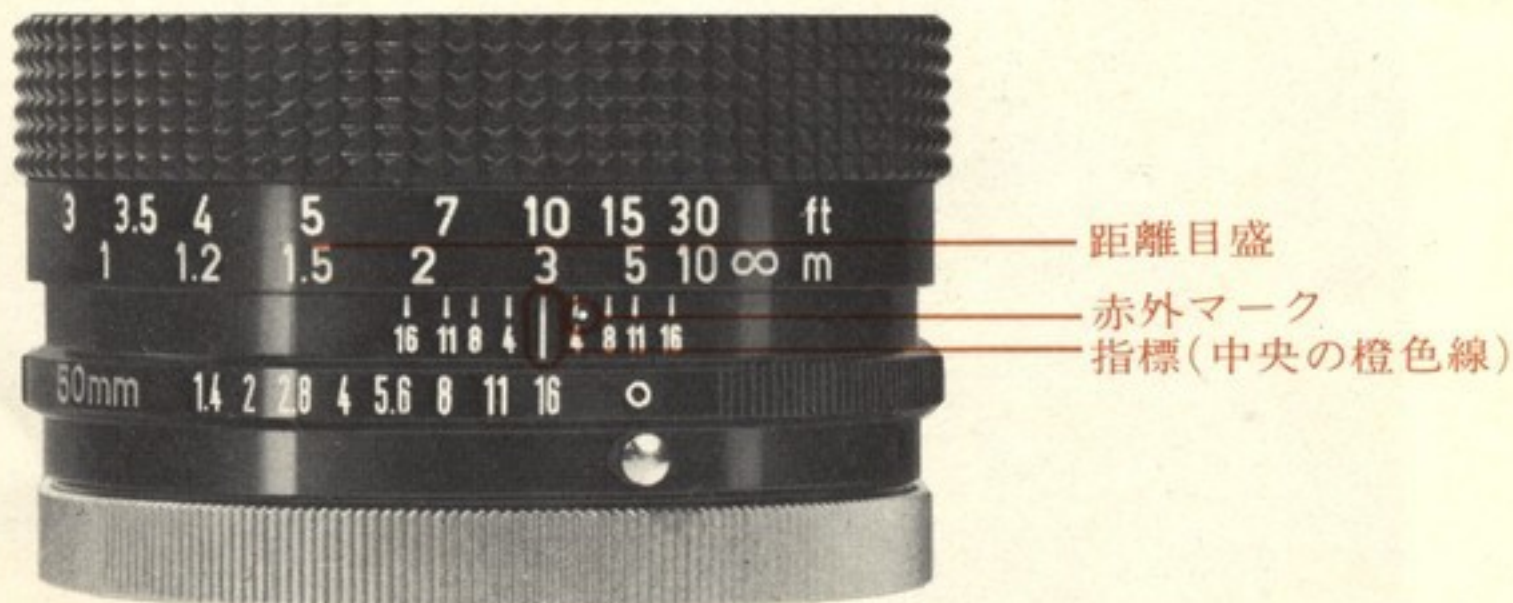
プリセット絞りリングを緑色マークにセットすると出てくるピンで FTb ボディに取り付でできなくなります。また FTb に取り付け後は緑色マークにセットできません。取り付けのときご注意ください

●予備信号ピン

FDレンズと FLレンズ判別ピンですが FTb には関係ありません。システムアクセサリ開発のための予備ピンです。

〈距離目盛〉

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すもので普通の撮影には必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影、あるいはガイドナンバーを使用するフラッシュ撮影などには必要となります。目盛は 1 桁数字の距離では、その文字の中心、2 桁数字では 2 つの文字の間、3 桁数字では、中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置です。



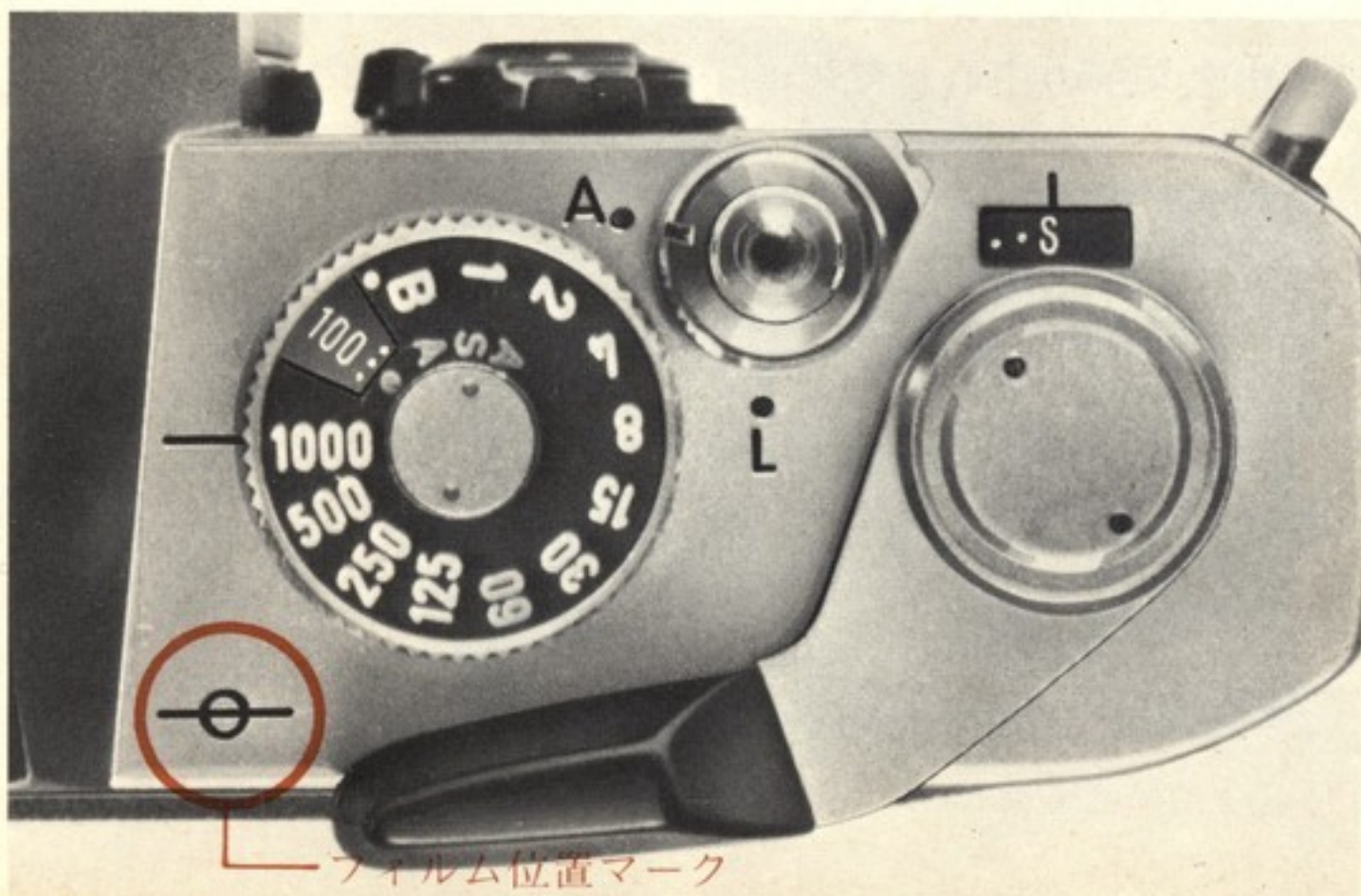
《赤外マーク》

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。やり方は普通にピントを合わせ、その距離目盛を読み取り赤外マークに合わせるだけです。たとえば、ピント合わせで距離目盛が10mなら、その10の目盛を赤外マークの位置までずらせばよいわけです。

赤外マークは800m μ 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外フィルター、たとえばコダックIR 135フィルムとラッテン87フィルターとを用いる場合を基準にして目盛ってあります。

《フィルム位置マーク》

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合にはフィルム位置マークから測って、その距離をレンズ目盛にうつします。一般撮影にはあまり必要がなく、接写、複写時に、アクセサリーの使用表から実測してカメラ位置をきめるのに主として利用されます。



《被写界深度目盛》

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は撮影距離と絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて絞り数値が目盛られています。

《F 8 に絞った場合》

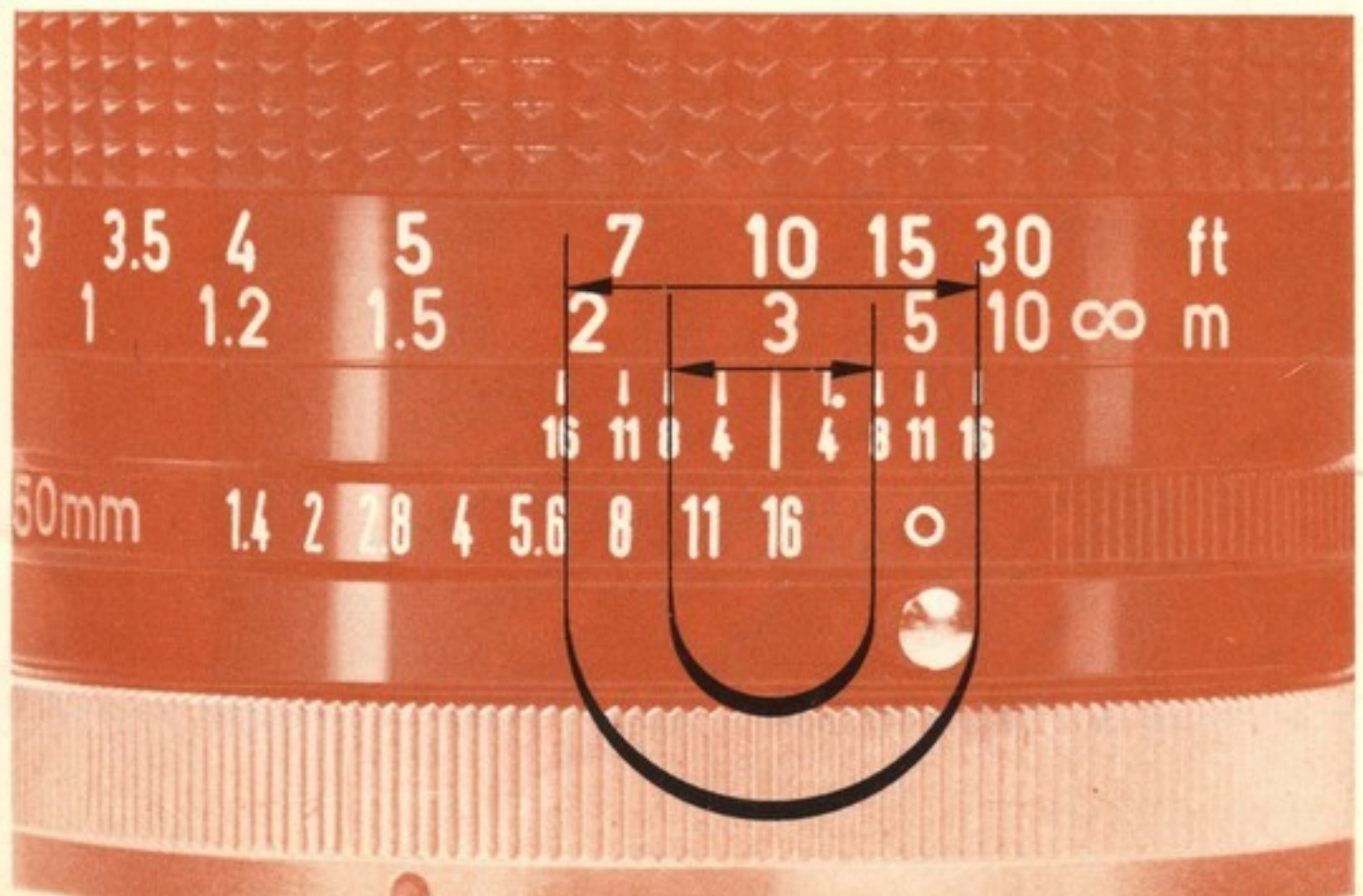
被写界深度目盛の使い方は、たとえば50mmレンズで3 mの距離にある被写体にピントを合わせ、F 8の絞りを使うとすれば、下図のように距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約23mと約43mとを読み取ります。そしてこの間にある被写体が、鮮明に写ることを目盛から知るわけです。

《F 16 に絞った場合》

同じくF 16に絞れば約19 mから7.6 mまで鮮明に写ることがわかります。

《被写界深度の性質》

ある被写体にピントを合わせると手前よりも後方に深く、レンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど前後に深くなり、逆の



場合ほど浅くなります。同じ撮影距離で同じ明るさの場合にはレンズの焦点距離が短いものほど被写界深度は深くなります。キヤノンFTbで深度の観察をするには、絞り込みレバーを倒してファインダーを覗いてください。

《FDレンズマウント(FLレンズとRレンズ)》

FTbのレンズマウントはF-1, FT, ペリックス, FX, FP等と同一ですからペリックス専用の広角レンズFLP 38mm F 28を除き、FLレンズのすべてが共用できます。この場合自動絞りが連動し、絞り込み測光ができます。また従来のキヤノンフレックス用Rレンズはすべて取り付け可能ですが、絞り機構が異なるため手動絞り撮影となり、測光時には絞り込みレバーを併用します。

レンズの泡は、明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことになりませんが、撮影上全く問題になりません。また像の鮮鋭度にも影響ありません。

《被写界深度の作例》



F8に絞った場合



F16に絞った場合



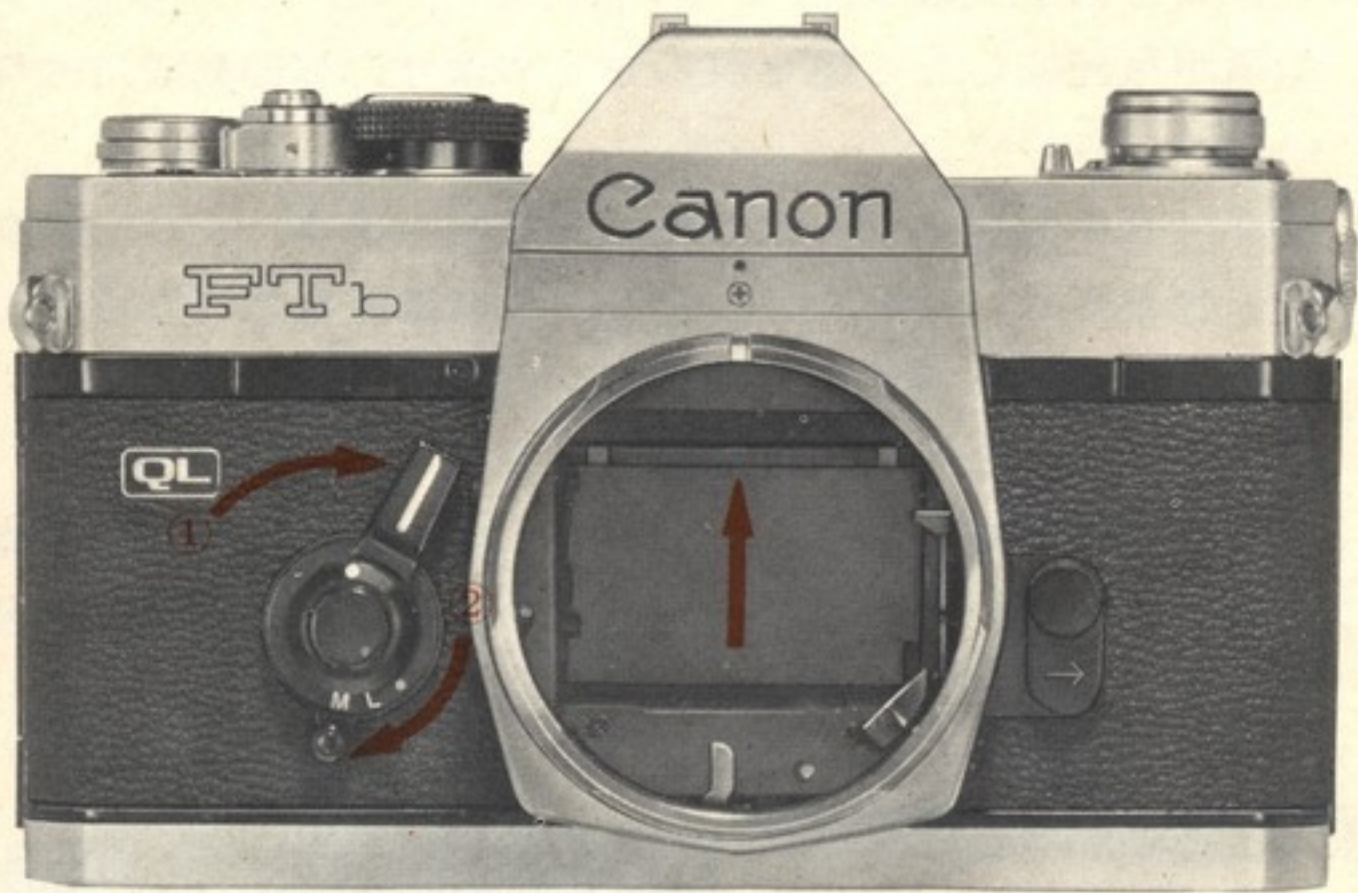
【ミラーのはね上げロック】

1. 接写、複写、顕写などでは構図をきめたのち、なるべくショックを与えずにシャッターを切る必要があります。このような場合にはミラーを上方に固定して、ミラーによるショックを減少させることができます。

ロックのしかたは、絞り込み測光レバーを倒し、測光ロック状態にしてから、さらにミラーロックレバーをM位置に回すとミラーが上方に固定されます。

その場合測光レバーのロックを確実にこなってください。ロックが不十分ですとミラーが上がりっぱなしになることがあります。

2. ミラーロックでの撮影は手動絞り撮影の状態となり、シャッターのみ作動します。FL19mm F35レンズを使用する場合には、レンズが後に突き出ているため、レンズ取り付け前にミラーロックを行なっておきます。このレンズ使用のときは別に専用ファインダーが必要です。ミラーロックはシャッターの巻き上げやシャッタースピードに関係なく行なうことができ、またフィルムの無駄送りもありません。
3. ミラーロックを行なったときは、ファインダーから被写体を覗くことはできませんから距離合わせは目測になります。
4. ミラーロックをしたままで撮影しないときには、シャッター幕の焼け穴防止およびフィルムの光線引き防止のため、レンズに必ずキャップをしてください。
5. ミラーロックを利用したあとは、必ずミラーロックレバーを戻してください。
6. ミラーロック後セルフタイマーをセットするとミラーロックが解除されます。
7. ミラーロックの解除はミラーロックレバーをM位置から白指標位置に回します。ミラーは自動的に戻ります。

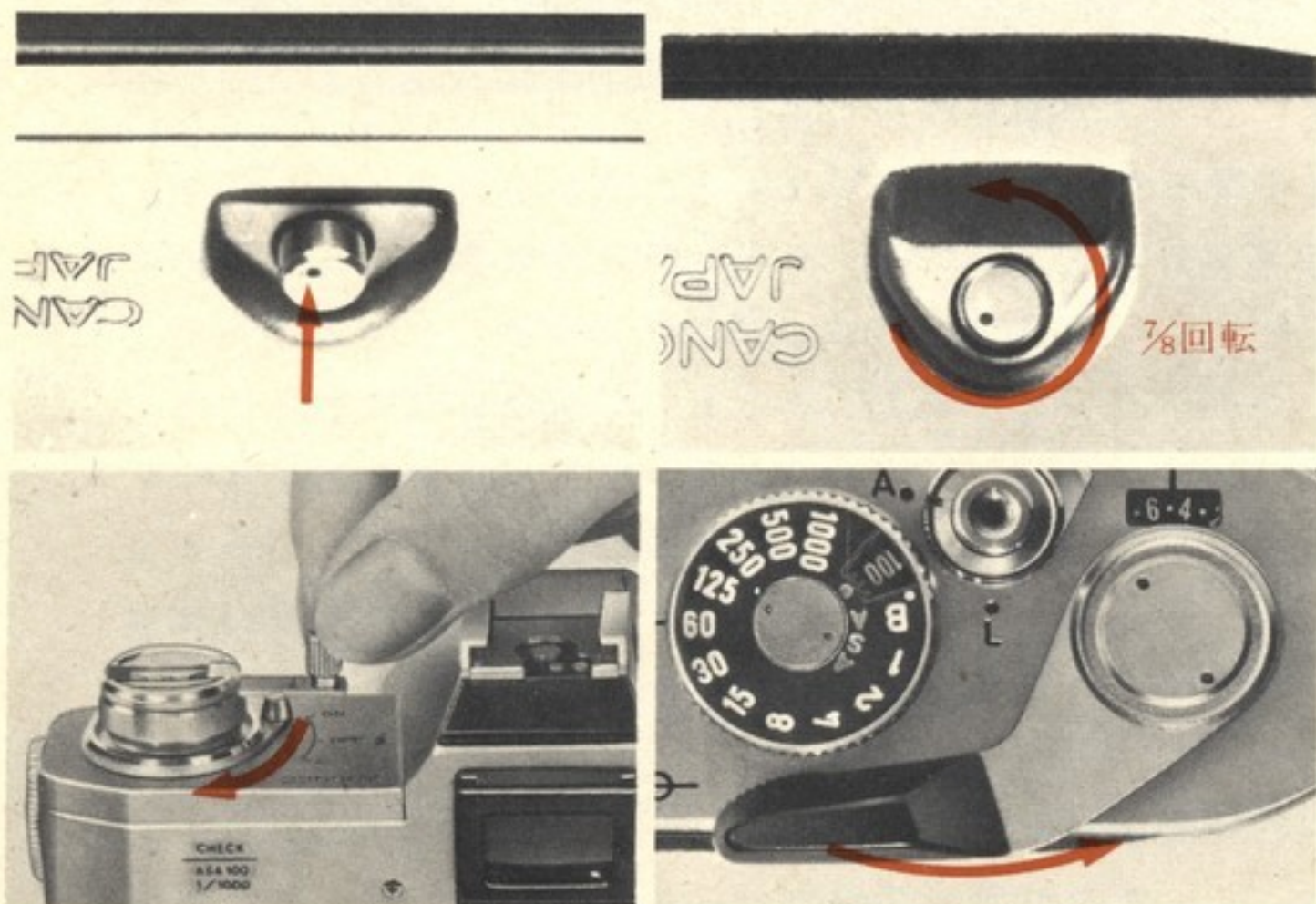


【二重露出】

このカメラは通常の取り扱いでは、二重露出防止になっていま
す。必要に応じて次のようにすれば二重露出ができます。

1. 第一回目の露出が終わったら、巻き戻しボタンを押します。
2. 巻き戻しボタンの指標を見ながら、巻き戻しクランクでフ
ィルムを巻き戻します。
3. 指標が $\frac{7}{8}$ 回転したら巻き戻しを止めます。 $\frac{7}{8}$ 回転をこえな
いでください。
4. つぎに巻き戻しクランクを軽くおさえたまま、レバーの巻
き上げを行ない、巻き戻しクランクに抵抗を感じたら、い
ったん巻き上げ操作をやめます。
5. それから通常の巻き上げを行ないます。

以上の操作を繰り返すと、同一フィルム面上に何回でも露
出することができます。ただし、フィルムカウンターは巻
き上げごとに進みます。



【キヤノンフィルターのおすすめ】

レンズねじ径に応じて各種フィルターが用意されており、黑白フィルム・カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

キヤノンFTbの露出計はTTL方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果をより高めるキヤノンフィルターをぜひお備えください。

種類	フィルター効果	
UV(SL39・3C) 黑白、カラー共通	・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多いところでは特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。	
黒 白 用	YI(SY44・2C) Y3(SY50・2C)	・黑白フィルムを利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。
	G1(MG55C)	・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します
	O1(SO56・2C)	・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
	R1(SR60・2C) 黑白、赤外共通	・コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
黒カ ラ 白 共 用	スカイライト	・青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。
	ND4 ND8	・ND4は $\frac{1}{4}$ 、ND8は $\frac{1}{8}$ に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません
カ ラ 用	カラーコンバージョンA (12相当)	・タングステンタイプフィルムのデイトタイプ転換用
	カラーコンバージョンB (12相当)	・デイトタイプフィルムのタングステンタイプ転換用
	カラーコンバージョンA4	・デイトタイプフィルムの曇天および晴天日影用
	カラーコンバージョンB4	・デイトタイプフィルムの朝夕用
	カラーコンバージョンA8	・ユニバーサルタイプフィルムの曇天用 ・タングステンタイプフィルムの朝夕用
	カラーコンバージョンB8	・人工光フラッシュ用

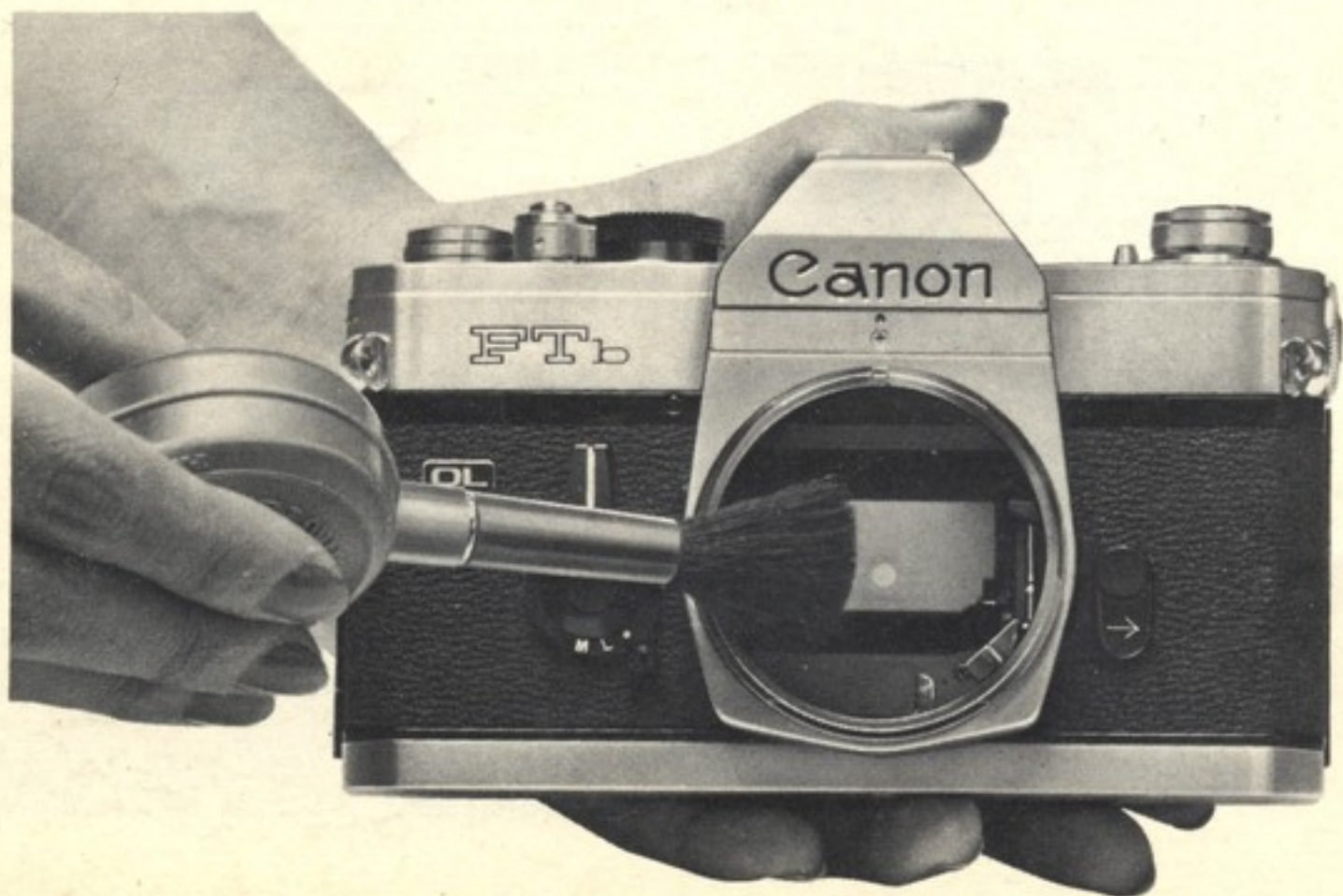
【カメラの保存と手入れ】

〈カメラの保存〉

カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用してください。保存の場合は、水銀電池を抜き、さらにケースもはずしてください。

〈カメラの手入れ〉

野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、知らないうちに水滴や塩分を受けてシミや錆などの悪い影響を及ぼしますから、なるべく早いうちに柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔かい布でていねいに拭いておいてください。レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔かい刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。やむをえないときは洗いさらした柔かい清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。



強く拭いたり、埃の付いているまま拭くとかえってキズを付けますから注意が大切です。

- フィルムのカスがたまると事故の原因になりますからお早目にご手入れに出してください。
- カメラを海中に落としたときは、ほとんど修理不可能になります。この場合はカメラ材料店もしくは当社営業所・サービスステーションにご相談ください。
- カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。
- 極寒地では、カメラを撮影時以外に直接外気に触れさせないよう保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落とさずにすみます。また冷えたカメラで撮影する場合、急激に温かい室内に入れたり、照明などで急速に温度を上昇させると、水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。

カメラを高温場所に放置しないようご注意ください。たとえば車のリヤウインドウやトランクの中では時に60°Cをこえることがあります、カメラ故障の原因になりますから絶対さけてください。キャップをはずしたままカメラを直射日光にさらさないでください。フィルムにかぶりを生じたり、ミラーのすきまから入った光でシャッター幕に焼け穴をつくることがあります。使用しないときは必ずレンズキャップをつけてください。

新しい水銀電池をお求めの際には、直接的な害はありませんが万一の汚染に備えて、使用済みの水銀電池と引き換えのうえ、お求めください。絶対に捨てないようお願いいたします。

絞り込み測光レバー
兼セルフタイマーレバー

絞り信号連動レバー

絞り込みロックレバー
兼ミラーロックレバー

自動絞り作動レバー

開放補正レバー

感電防止カバー
(フラッシュターミナル)



水銀電池室蓋

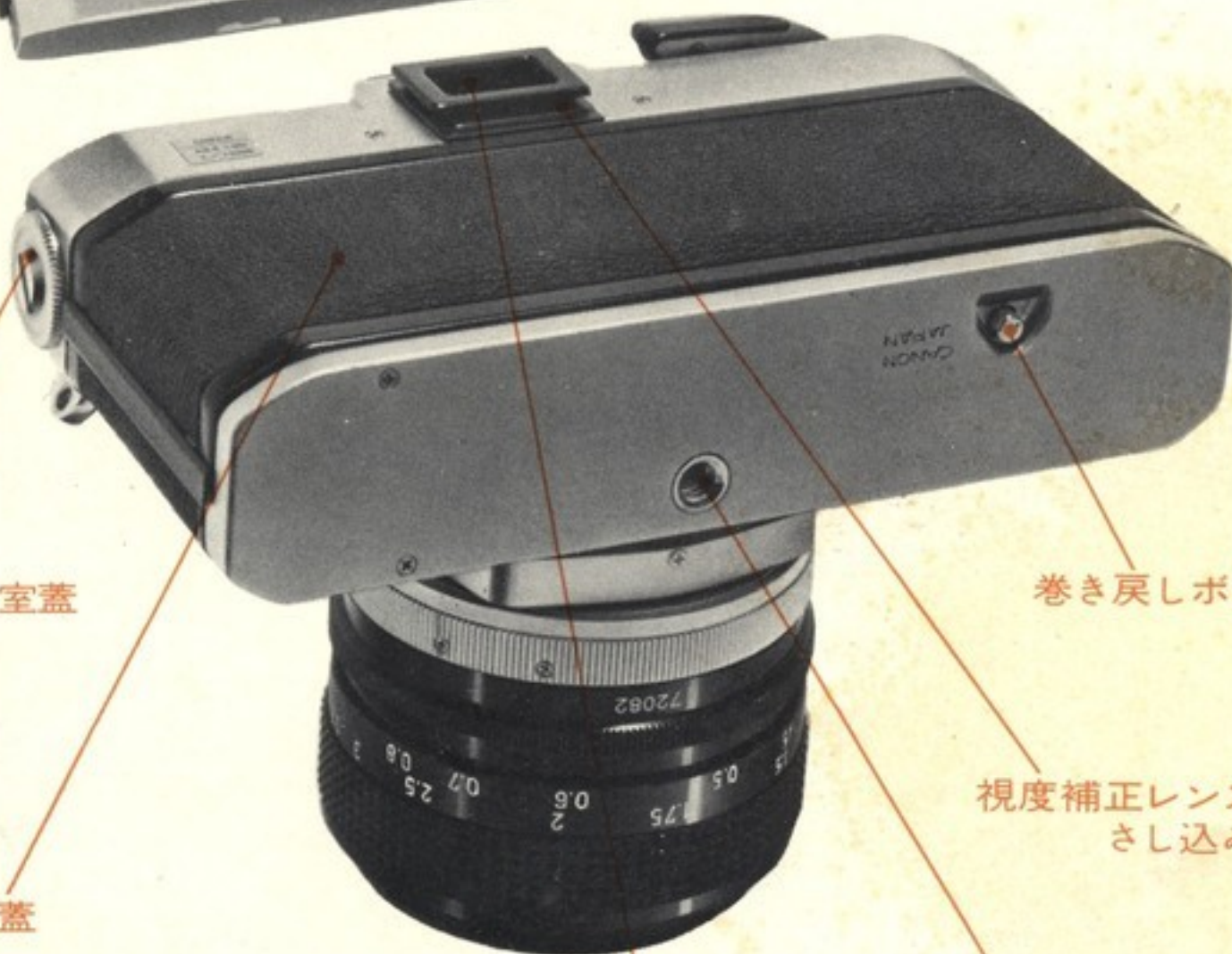
巻き戻しボタン

裏蓋

視度補正レンズ
さし込み溝

ファインダー接眼部

三脚ねじ穴



【キヤノンブースターのおすすめ】

微光量下の被写体を完全測光するキヤノンブースター

〈ブースターの使用〉

暗い被写体、夜景撮影のさい取り付けて測光する超高感度補助メーターです。絞り込みによってマイナス領域まで測光できます。

〈ご使用上の注意〉

FTbで使用する場合、測光ダイヤル上の機種表示窓にP（あるいはPFb）マークを表示してください。Fマークで使用すると露出が一段不足します。ただし使用できる秒時は $\frac{1}{30}$ 秒～30秒までで、60秒では測光できません。

〈性能〉

CdS受光体：FTbに組み込まれたものを利用する。

測光範囲：ASA100EV - 35 ~ 10 < F 12 15秒 ~ F 22 $\frac{1}{2}$ 秒 >

フィルム感度：ASA20 ~ 12,800

測光方式：ゼロ調節，露出時間読み取り式

使用シャッター目盛：FTb用

30 ~ $\frac{1}{30}$ 秒

照明ランプ：メーター表示窓の

照明用ランプあり。カ

メラ側の電源を利用。

電源：H-D型水銀電池13V 2

コ使用

電源チェッカー：切り換えスイ

ッチ兼用。

大きさ：65×45×39mm

重量：180g



Canon

キヤノン株式会社

〒104 東京都中央区銀座5-9-9 ☎(03)572-4251

キヤノン販売株式会社

〒141 東京都品川区東五反田1-13-12 ☎(03)449-2111

営業所

東京営業所・(141)	東京都品川区東五反田1-13-12	(03) 449-2111
千葉営業所・(280)	千葉市千葉港4番3号(千葉県私学会館4階)	(0472) 43-9648
大宮営業所・(330)	大宮市桜木町4-218(共栄ビル2階)	(0486) 41-9122
名古屋営業所・(466)	名古屋市昭和区阿由知通り4-13(朝日生命ビル6階)	(052) 851-4551
大阪営業所・(541)	大阪市東区瓦町5-39(大阪化繊会館3階)	(06) 202-6761
京都営業所・(600)	京都市下京区四条通東洞院角(富国生命ビル4階)	(075) 211-1388
金沢営業所・(920)	金沢市高岡町2-37(不銀ビル5階)	(0762) 63-0351

サービスステーション

銀座・(104)	東京都中央区銀座5-9-9	(03) 572-4251
大阪・(530)	大阪市北区梅田2(第一生命ビル2階)	(06) 341-9335
名古屋・(450)	名古屋市中村区堀内町4-1(毎日会館2階)	(052) 581-3811

営業所・サービスステーション

札幌・(060)	札幌市中央区北三条西4-1(第一生命ビル4階)	(011) 231-1313
仙台・(980)	仙台市一番町1-1-30(やまと生命仙台ビル6階)	(0222) 66-4151-7
新潟・(950)	新潟市東大通1-4-1(マルタケビル7階)	(0252) 46-0131-3
横浜・(231)	横浜市南区南仲通り4-39(石橋ビル1階)	(045) 211-1691
福岡・(420)	福岡市南区南門外7-1(米会館1階)	(0542) 55-2241
岡山・(086)	岡山市中区南門外7-1(米会館1階)	(0862) 22-8228
広島・(082)	広島市中区本町4-1(第二有楽ビル4階)	(0822) 44-4615
福岡・(812)	福岡市博多区博多駅前4-20-23(セントラルビル1階)	(092) 41-4172